

令和6年度

学生募集要項

看護学研究科看護学専攻 修士課程



三重県立看護大学大学院

Graduate School, Mie Prefectural College of Nursing

目 次

1	教育理念	3
2	教育目標	3
3	アドミッション・ポリシー	3
4	カリキュラム・ポリシー	4
5	ディプロマ・ポリシー	5
6	教育研究分野及び問い合わせ先	6
7	履修方法	7
8	修了要件	7
9	一般入試	8
■ 1	募集人員	8
■ 2	出願資格	8
■ 3	出願期間	9
■ 4-1	出願方法	9
■ 4-2	個別の出願資格審査	11
■ 5	出願先	13
■ 6	受験票について	13
■ 7	就学に関する特別措置	13
■ 8	選抜方法等	14
■ 9	合格発表	15
10	機関長推薦入試	16
■ 1	募集人員	16
■ 2	推薦要件・出願資格	16
■ 3	出願期間	17
■ 4	出願方法	17
■ 5	出願先	18
■ 6	受験票について	19
■ 7	就学に関する特別措置	19
■ 8	選抜方法等	19
■ 9	合格発表	20
■ 10	連携協力協定締結機関	20
11	学内推薦入試	21
■ 1	募集人員	21
■ 2	推薦要件	21
■ 3	出願期間	21
■ 4	出願方法	22
■ 5	出願先	23
■ 6	受験票について	23
■ 7	就学に関する特別措置	24
■ 8	選抜方法等	24
■ 9	合格発表	25
12	共通事項	26
■ 1	出願書類の記入例及び記入上の注意	26
■ 2	試験場・入学手続場所案内図	31
■ 3	入学手続	33
■ 4	初年度納付金	34
■ 5	個人情報の取扱いについて	34
■ 6	個人別評価の提供	35

参 考

三重県立看護大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）の概要	37
---------------------------------	----

添付書類（以下の各書類が綴じ込んであるかを確認してください。）

A票	入学志願票	出願書類一式
B票～D票	写真票、受験票兼領収書、原符	
E票	志願理由書	
F票	推薦書（機関長推薦）	
G票	推薦書（学内推薦）	
H票	電算処理票	
I票	受験票返送用封筒	
J票	連絡用宛名票シール	
K票	出願用封筒	
<hr/>		
L票	出願資格審査申請書	一般入試の出願資格(9)(10)による資格審査用
M票	課題論文（出願資格審査用）	

一般的注意事項

- 1 この募集要項には、出願から入学までの諸手続を詳しく記載してあります。内容を取り違えることがないようによく読んでください。
- 2 試験当日には、試験場やその周辺で、合格電報の勧誘や物品の販売等を行っていることがあります。これらの行為は三重県立看護大学とは関係がありません。不当な料金を請求される等のトラブルに巻き込まれないよう十分注意してください。そのような事故が生じて、本学は一切責任を負いません。

1 教育理念

崇高な人間性と幅広い視野を基盤に、学際的で広範な視点から看護学の学識を教授し、卓越した看護実践能力及び先駆的な研究能力を持つ人材を育成し、もって県民の健康で豊かな生活の創造と看護学の発展に寄与します。

2 教育目標

1. 多様な看護ニーズに応えうる高度専門職業人としての看護実践者の養成

多様化・複雑化・高度化する看護ニーズに的確に応えていくには、看護の特定分野における看護実践能力や総合的な調整能力を有する人材が求められています。

看護基礎教育の大学化進展の状況を踏まえ、より専門性・独創性を重視した大学院教育を行い、高度専門職業人としての看護実践者を養成します。

2. 看護の質の向上に寄与する看護管理者の養成

医療技術の高度化、保健・医療・福祉施設の多様化、在宅療養者の増加等、近年の看護ケアの形態の多様化は従来の看護管理のあり方のみでの対応を困難にしています。

また、チーム医療の普及、保健・医療・福祉を担う専門職の多様化、介護保険制度の導入等からも、看護管理者には看護専門職者としての総合的な調整力が求められます。

多様な施設や地域社会において看護を有効に機能させ、看護の質の高度化を図るため、高度な看護管理能力、指導力、総合的調整力を有する看護管理者を養成します。

3. 看護教育者・看護学研究者の養成

看護の質の向上のためには、看護教育・研究の充実が不可欠です。しかしながら、看護基礎教育の大学化の急速な進展の中で看護職員の不足は既に顕著であり、看護の専門分野における豊かな知識と高度な研究能力を有する資質の高い看護教育者や研究者を養成することが急務となっています。

看護学教育・研究の中核機関として、看護教育を担う人材を養成するとともに、地域の特性や変化する社会のニーズに的確に対応した看護学教育研究の推進による看護学の発展に寄与する研究者を養成します。

3 アドミッション・ポリシー

本研究科では、看護の発展と質の向上に寄与する人材として看護学の研究者及び教育者、管理者の養成を目指すとともに、多様な看護ニーズに応えうる高度な専門知識と技術を有する看護実践者の養成を目指して、様々な教育研究分野に修士論文コース、臨地教育者コース、専門看護師コースを設置し、次のような資質を有する人を求める。

1. 修士論文コースにおいては、看護実践に含まれる様々な看護上の課題に関して主体的・自律

的に探求しようとする姿勢を有している人

2. 臨地教育者コースにおいては、看護教育への積極的な姿勢と展望を持ち、将来、臨地における教育者として社会に貢献しようとする意志を有している人
3. 専門看護師コースにおいては、看護の特定分野における高度な知識と技術の修得を目的とし、多様化・複雑化・高度化する看護ニーズへの対応にやりがいと使命を有している人
4. 上記各コースに共通して共感的・援助的コミュニケーション能力を有し、論文作成や看護学をより深く学ぶために必要となる学士課程卒業レベルの基礎知識を有している人

4 カリキュラム・ポリシー

本研究科の教育は、豊かな人間性と高い倫理観を基盤として、多様化・複雑化・高度化する地域特性や社会変化に応じた看護ニーズを的確に捉え、現場の様々な課題を探求する能力と教育能力を育成する。これらの能力を修得することができるように次のように分野を構成し、教育課程を編成・実施する。教育課程の編成・実施にあたり長期履修生が3年間の修業期間において計画的に履修できるように科目の設置および配置を行う。

1. 教育研究分野としては、「実践基盤看護学」「看護教育学」「看護管理学」「母性看護学」「小児看護学」「成人急性期看護学」「成人慢性期看護学」「老年看護学」「精神看護学」「在宅看護学」「公衆衛生看護学」の看護系分野を設置するほかに、基礎教養系および専門支持系の専門性を活かして多様な看護学の研究課題に対応できるように「人文社会看護学」「自然科学看護学」を設置する。
2. 各専門分野の知識と研究能力を修得する修士論文コース、看護の現場での教育指導能力を修得する臨地教育者コース、看護学の特定分野における実践能力を獲得する専門看護師コースを設置する。専門看護師コースについては「母性看護学」「老年看護学」「精神看護学」に設置する。
3. 教育課程は、共通科目Ⅰと共通科目Ⅱ、専門科目で構成し、共通科目Ⅰには、看護における教育者あるいは実践者としての基礎的な能力を修得するための「看護研究概論」「看護教育論」「コンサルテーション論」、豊かな人間性や高い倫理観を育むための「看護倫理」、リーダーシップやマネジメント力を修得するための「看護管理論」、英語論文を読む能力を修得するための「英書講読」を設置する。また、修士論文や課題論文の作成に必要な研究方法が学修できるように「看護研究方法論Ⅰ（量的研究）」と「看護研究方法論Ⅱ（質的研究）」を選択科目として設置する。さらに、母性看護、老年看護および精神看護の専門看護師の養成に対応できるように「フィジカルアセスメント」「病態生理学」「臨床薬理学」も設置し、コース特性に応じて必修科目あるいは選択科目とする。

4. 共通科目Ⅱは、各専門分野の特論を設置し、専攻分野の特論を必修科目とするほか、幅広く知識を修得できるように専攻分野以外の特論を選択できるようにする。特に臨地教育者コースについては、看護教育学特論を必修科目とする。
5. 修士論文コースの専門科目においては、各教育研究分野における看護の現状と課題を明確にするため理論・研究・実践の諸概念を学ぶ科目として、分野ごとに「演習」と「特別研究」を設置する。
6. 臨地教育者コースの専門科目においては、看護系教育研究分野における現状と課題を明確にするための「演習」のほかに、看護の現場での教育指導能力が修得できるよう臨地教育実習を設置する。また、臨地における研究能力の育成のために「課題研究」を設置する。
7. 専門看護師コースの専門科目においては、特定分野における現状と課題を明確にするための「援助論」「演習」のほかに、専門看護師として臨床現場でのスペシャリストとしての能力が修得できるよう実習を設置する。また、専門看護師に必要な特定分野における研究能力の修得のために「課題研究」を設置する。

5 ディプロマ・ポリシー

本研究科では、以下のような姿勢・能力を身につけ、所定の単位を修得し、修士論文審査及び最終試験を合格した者に修士（看護学）の学位を授与する。

1. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズを的確に捉えるための看護学の高度な専門的知識を修得している。
2. 豊かな人間性と高い倫理観を基盤としたリーダーシップやマネジメント力を修得している。
3. 地域の特性や変化する社会のニーズを的確に捉え、現場のさまざまな課題について探究する能力を修得している。
4. 看護教育者あるいは看護実践者としての基礎的な教育能力を修得している。

修士論文コース修了者は、1から4に加えて、次の能力を身につけている。

5. 看護学の発展に寄与するための研究能力を修得している。

臨地教育者コース修了者は、1から4に加えて、次の能力を身につけている。

6. 看護実践の場における看護専門職者や看護学生に対する教育能力を修得している。

専門看護師コース修了者は、1から4に加えて、次の能力を身につけている。

7. 看護学の特定分野における卓越した看護実践能力を修得している。

6 教育研究分野及び問い合わせ先

教育研究分野	問い合わせ先 教 員 名	E-mailアドレス
人文社会看護学	小 池 敦	atsushi.koike@mcn.ac.jp
	浦 野 茂	shigeru.urano@mcn.ac.jp
	安 部 彰	akira.abe@mcn.ac.jp
自然科学看護学	齋 藤 真	shin.saitou@mcn.ac.jp
	大 西 範 和	norikazu.oonishi@mcn.ac.jp
	林 辰 弥	tatsuya.hayashi@mcn.ac.jp
実践基盤看護学	中 西 貴美子	kimiko.nakanishi@mcn.ac.jp
看護教育学		
看護管理学		
母性看護学	大 平 肇 子	motoko.oohira@mcn.ac.jp
小児看護学	宮 崎 つた子	tsutako.miyazaki@mcn.ac.jp
	前 田 貴 彦	takahiko.maeda@mcn.ac.jp
成人急性期看護学	玉 田 章	akira.tamada@mcn.ac.jp
成人慢性期看護学	大 川 明 子	akiko.okawa@mcn.ac.jp
老年看護学	中 西 貴美子	kimiko.nakanishi@mcn.ac.jp
精神看護学		
在宅看護学		
公衆衛生看護学	清 水 真由美	mayumi.shimizu@mcn.ac.jp

7 履修方法

教育研究分野（6ページ）から1専攻分野を選択し、以下のように履修します。

なお、オンライン授業が可能な科目については、Microsoft Teams等を利用した遠隔授業を実施しています。

区 分	修士論文コース	臨地教育者コース	専門看護師 (CNS) コース	必修/選択
共通科目Ⅰ	6単位	6単位	10単位	必修
	2単位以上	2単位以上	(*) 6単位以上	選択
共通科目Ⅱ (特 論)	専攻分野 2単位	専攻分野 2単位	専攻分野 2単位	必修
	その他 2単位以上			選択
専 門 科 目		看護教育学特論 2単位		必修
	演 習 6単位	演 習 6単位	演 習 12単位	必修
	特別研究 12単位	臨地教育実習 6単位	実 習 10単位	必修
		課題研究 6単位	課題研究 6単位	必修
合 計	30単位以上	30単位以上	46単位以上	

(注1) 母性看護学分野、老年看護学分野、精神看護学分野に専門看護師 (CNS) コースがあります。

*…専門看護師 (CNS) 認定基準に基づき指定する授業科目から選択します。

(注2) 授業科目、授業内容等については巻末参考の教育課程 (37～59ページ) を参照してください。

8 修了要件

修士課程の修了要件は次のとおりです。

本大学院に2年以上在学し、修士論文コース及び臨地教育者コースにあっては30単位以上を、専門看護師 (CNS) コースにあっては46単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受け修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、優れた業績を挙げた者については、本大学院に1年以上在学すれば足りるものとします。

9 一般入試

1 募集人員

研究科名	課程名	専攻名	募集人員
看護学研究科	修士課程	看護学専攻	15名（機関長推薦入試及び学内推薦入試の若干名を含む。）

◆教育研究分野

教育研究分野	修士論文コース	臨地教育者コース	専門看護師(CNS)コース
人文社会看護学	○		
自然科学看護学	○		
実践基盤看護学	○	○	
看護教育学	○		
看護管理学	○		
母性看護学	○	○	○
小児看護学	○	○	
成人急性期看護学	○	○	
成人慢性期看護学	○	○	
老年看護学	○	○	○
精神看護学	○	○	○
在宅看護学	○	○	
公衆衛生看護学	○	○	

(注) 各教育研究分野については、6、7ページをご確認ください。

2 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に規定する大学を卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和6年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和6年3月修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和6年3月修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該過程を修了した者及び令和6年3月修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の

政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該過程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和6年3月31日までに授与される見込みの者

- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- (9) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本大学院において所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者(※)
- (10) 本大学院が行う個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和6年3月31日までに22歳に達する者(※)
- (11) 本大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(※) 出願資格(9)又は(10)により出願をしようとする者は、出願前に **4-2 個別の出願資格審査** が必要です。(11~13 ページを参照してください。)

◎修士論文コースの出願にあたって、看護師・保健師・助産師資格は問いません(ただし、出願資格(10)により出願する場合を除く)。

3 出願期間

一次募集	令和5年7月24日(月)~令和5年8月4日(金)(必着)
二次募集	令和5年10月10日(火)~令和5年10月20日(金)(必着)

(注) 1 郵送による場合、出願期間最終日までの発信郵便局の消印のあるものに限り、受け付けします。

2 直接持参による場合の受付時間は、土曜日、日曜日、祝日を除く9時から17時までです。

4-1 出願方法

- (1) 出願を希望する者は、事前に必ず教育研究分野の中から志望する分野の担当教員(6ページ記載)と直接面談し、研究・教育について相談してください。
- (2) 出願の際は、「出願書類」を全て所定の封筒に入れ、出願期間内に提出してください。郵送による場合には「書留速達郵便」で郵送してください。
- (3) 出願書類

A~D、H票 は26~29ページの **12 共通事項** **1 出願書類の記入例及び記入上の注意** を参照の上、必要事項を漏れなく記入してください。

出願に必要な書類		作成方法
A 票	入学志願票	裏面にも記入欄がありますので、注意してください。 面談時に担当教員の署名をもらってください。
B 票	写真票	縦4cm×横3cmの写真（上半身正面、無帽、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの。白黒、カラーどちらでも可）の裏面に氏名、生年月日を記入し、写真貼付欄に剥がれないように全面をのりづけしてください。
C 票	受験票兼領収書	B票の写真票と同一の写真を貼ってください。
D 票	原符	
E 票	志願理由書	本学所定の様式に、志願者本人が記述してください。 （本研究科への志望動機、志望分野において希望する研究テーマについて）
H 票	電算処理票	必要事項を HBの黒鉛筆 （シャープペンシル可）で漏れなく記入してください。
I 票	受験票返送用封筒	本学所定の封筒に、郵便番号、住所、氏名を明記して、344円切手（定形速達料金）を貼付してください。
J 票	連絡用宛名票シール	入学手続資料等の送付に使用しますので、志願者の郵便番号、住所、氏名を記入してください。
K 票	出願用封筒	「出願者」欄に必要事項を記入し、直接持参又は書留速達郵便で送付してください。
成績証明書（※）		出願資格に該当する大学等の学長又は学部長が証明したものを、厳封の上、提出してください。大学等に編入している者は、編入前の学校の成績証明書もあわせて提出してください。 ※記録保存期間の経過、廃校・被災その他の理由により成績証明書が発行されない場合は、「発行できない旨の文書」を提出してください。
卒業・修了（見込み）証明書（※）		出願資格に該当する大学等の卒業又は修了（見込み）証明書を提出してください。 なお、学位授与機構から学士の学位を授与された者は学位授与証明書を、学士の学位を授与される見込みの者は学位授与申請受理証明書を提出してください。（学位授与申請受理証明書を提出した者は、学位授与後、学位授与証明書を提出していただきます。）
入学検定料		30,000円（郵便普通為替とする。） 郵送による場合も、 普通為替証書 を出願書類に同封して提出してください。「指定受取人」欄及び「おところ・おなまえ」欄には一切記入しないでください。
免許証の写し		自身が保有している国家資格（看護師等）があれば、免許証の写し（A4判に縮小したもの）を提出してください。

(※) 出願資格(9)又は(10)により出願する者は、個別の出願資格審査申請時に下記の書類を提出いただきますので、出願時に提出する必要はありません。

出願資格(9)：成績証明書、免許証の写し

出願資格(10)：成績証明書、卒業・修了（見込み）証明書、免許証の写し

(4) 出願にあたっての注意事項

- ① 出願書類が全てそろっていない場合には、書類の受付はできません。提出の際は十分確認してください。
- ② 出願受付後には、出願事項の変更は認めません。ただし、住所、氏名、電話番号に変更があった場合には、出願先まで連絡してください。
- ③ 出願受付後には、志望する教育研究分野の変更は認められません。
- ④ 外国語で書かれた書類については、日本語訳を作成し、公的機関で証明を受けたものを添付してください。
- ⑤ 入学を許可した後であっても、出願書類の記載内容と相違する事実が発見された場合には、入学を取り消すことがあります。
- ⑥ 一度受付をした出願書類及び入学検定料は、返還しません。

4-2 個別の出願資格審査

(1) 出願資格(9)又は(10)により出願を希望する者については、出願前に個別の資格審査を行いますので、下記の書類を取りそろえ、以下の期間に提出してください。なお、書類の提出前に、必ず教育研究分野の中から志望する分野の担当教員（6ページ記載）と直接面談し、研究・教育について相談してください。

※出願資格が認定された場合の有効期間は、当該年度のみです。

一次募集	令和5年6月19日(月)～令和5年6月30日(金) (必着)
二次募集	令和5年9月4日(月)～令和5年9月13日(水) (必着)

- (注) 1 郵送による場合は、期間内に届くよう「書留速達郵便」で郵送してください。
 2 直接持参による場合の受付時間は、土曜日、日曜日、祝日を除く9時から17時までです。

資格審査に必要な書類		作成方法	出願資格	
			(9)	(10)
L票	出願資格審査申請書	本学所定の様式に、必要事項を記入してください。	○	○
M票	課題論文	本学所定の様式に、志願者本人が記述してください。（関心を持っている研究テーマについて）	○	○

資格審査に必要な書類	作成方法	出願資格	
		(9)	(10)
成績証明書	出願資格(9)にあつては、在学中最終のもの、出願資格(10)にあつては、12ページ(2)の表中「卒業又は修了した学校」の該当する学校の長が証明したものを、厳封の上、提出してください。 なお、看護系短期大学、専修学校等で看護師、保健師、助産師の教育を受けた者は、当該学校の成績証明書もあわせて提出してください。	○	○
卒業・修了(見込み)証明書	12ページ(2)の表中「卒業又は修了した学校」の該当する学校の卒業又は修了(見込み)証明書を提出してください。		○
免許証の写し	看護師、保健師、助産師の免許証の写し(A4判に縮小したもの)を提出してください。		○
その他の証明書(該当者のみ)	12ページ(2)の表中「卒業又は修了した学校」のウに該当する者は、当該学校の入学資格、卒業又は修了に必要な修業年数・単位(時間)数を記載した書類を提出してください。		○
学部学科の履修要覧	卒業に必要な授業科目・単位数のわかるものを提出してください。	○	
推薦書	学科主任、指導教員等が記載したものを提出してください。	○	
返信用封筒	長形3号の封筒に、申請者の郵便番号、住所、氏名を明記の上、344円切手(定型速達料金)を貼付したものを提出してください。	○	○
在職証明書	12ページ(2)の表中「卒業又は修了した学校」の区分毎に実務研究経験の期間を満たすものを提出してください。全ての実務研究経験に対する在職証明は必要ありません。		○

(2) 出願資格(10)による資格審査申請条件については、看護師、保健師、助産師のいずれかの資格を有し、かつ卒業又は修了した学校種別で以下の実務研究経験を有する必要があります。

卒業又は修了した学校	実務研究経験の期間(※)
ア 修業年限が2年の短期大学、専修学校専門課程及び高等学校専攻科(5年一貫制の課程を含む)	2年以上
イ 修業年限が3年の短期大学及び専修学校専門課程	1年以上
ウ その他の教育施設	大学卒業までの最短修業年数(16年)から、最終学校卒業又は修了までの最短修業年数を控除した期間以上

(※) 実務研究経験の期間とは、看護師、保健師、助産師のいずれかの資格を取得した後、令和6年3月31日時点での以下の期間（①又は②の期間については正規職員として従事した期間）を合算したものとします。なお、出願資格審査の申請時点で実務研究経験が上記の期間に満たない場合は、後日、期間を満たしたことを証明する書類（在籍期間証明書等）の提出が必要となります（令和6年3月31日時点で期間を満たしたことが確認できない場合は、資格を取り消します。）。

- ① 病院等における臨床実務に従事した期間
- ② 大学・短期大学、官公庁、研究所、会社等の教育又は研究開発部門に教育職又は研究職として従事した期間
- ③ 大学・短期大学等に置かれた専攻科等に在学した期間
- ④ 大学又は短期大学において、研究生として在学した期間

(3) 審査

・提出された書類により審査します。

審査の結果は、以下の期日以降に本人に書面で通知します。一週間を経過しても届かないときは出願先まで問い合わせてください。

一次募集	令和5年7月7日（金）
二次募集	令和5年10月6日（金）

5 出願先

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地1
三重県立看護大学 教務学生課
電話 059-233-5602

6 受験票について

出願後、後日大学から送付します。試験期日の6日前までに受験票が届かない場合には、出願先までお問い合わせください。

7 就学に関する特別措置

(1) 教育方法の特例

大学院設置基準第14条では、教育方法の特例により夜間その他特定の時間又は時期において授業や研究指導を行うことができることとされています。

本学では、社会人の方に就学しやすい環境を提供するため、この教育方法の特例を適用して

います。

(2) 長期履修制度

本学では職業を有している等の事情により、2年間で教育課程の履修が困難な学生に対して、3年間で計画的に履修し、教育課程を修了することにより学位を取得することができる、長期履修制度を導入しています。

これらの特例による就学を希望する者は、出願前に志望する教育研究分野の担当教員に相談をしてください。出願前に相談がなかった場合には、これらの制度を利用することはできません。

8 選抜方法等

(1) 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、面接及び出願書類により行います。

(2) 試験日

一次募集	令和5年8月30日（水）
二次募集	令和5年11月25日（土）

(3) 時間割

科目名	時間
専門科目（共通）	9時00分～10時00分
専門科目（分野別）	10時20分～11時20分
面接	12時00分～

(4) 試験科目

① 専門科目（共通）：看護学一般

② 専門科目（分野別）：入学志願票 **A票** に記載した志望する教育研究分野の科目

③ 面接

※①、②については論述試験です。

(5) 試験場（31ページ参照）

三重県立看護大学
三重県津市夢が丘1丁目1番地1

(6) 受験上の注意事項

① 試験に関する諸注意を行いますので、8時45分までに試験室に入室してください。

② 専門科目（共通）試験開始後、20分以内の遅刻に限り受験を認めます。ただし、試験時間の延長はしません。

③ 面接試験開始時刻に不在であった者は、欠席したものとし、入学者選抜の対象から除外します。

- ④ 1 教科でも受験しない者は、入学者選抜の対象から除外します。
- ⑤ 試験日当日は「受験票」「HBの黒鉛筆又はシャープペンシル」「プラスチック製消しゴム」を必ず持参してください。
- ⑥ 試験の際は、机の上に「受験票」「HBの黒鉛筆又はシャープペンシル」「プラスチック製消しゴム」「鉛筆削り」「時計」「眼鏡」以外の物は置かないでください。
- ⑦ 携帯電話や音の出る機器は、アラームの設定を解除し電源を切り、かばん等に入れてください。
- ⑧ 試験日当日、受験票を忘れた者は、速やかに受験票の再発行手続を行ってください。
また、受験票は、入学手続の際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。
- ⑨ 試験場では、監督者等の指示に従ってください。
- ⑩ 入室後は試験終了まで学外に出ることができませんので、昼食等は必要に応じて各自持参してください。
- ⑪ 災害その他の事情により、所定の試験日程による試験実施が困難になった場合等は本学ホームページ (<https://www.mcn.ac.jp>) でお知らせしますので必ず確認してください。

9 合格発表

(1) 発表日時

一次募集	令和5年9月8日(金) 14時
二次募集	令和5年12月8日(金) 14時

(2) 発表方法

合格者には合格通知書及び入学手続関係書類等を郵送するとともに、本学ホームページ (<https://www.mcn.ac.jp>) 上に合格者の受験番号を掲載します。

この合格通知書をもって正式な通知といたします。

(今年度から中庭掲示板での合格者発表は行いません)

なお、ホームページ上に掲載する合格者受験番号は、あくまでも情報提供サービスの一環として掲載するものであり、正式には合格通知書で確認してください。

電話等による問い合わせには応じません。

10 機関長推薦入試

1 募集人員

研究科名	課程名	専攻名	募集人員
看護学研究科	修士課程	看護学専攻	若干名

◆教育研究分野

教育研究分野	修士論文コース	臨地教育者コース	専門看護師(CNS)コース
人文社会看護学	○		
自然科学看護学	○		
実践基盤看護学	○	○	
看護教育学	○		
看護管理学	○		
母性看護学	○	○	○
小児看護学	○	○	
成人急性期看護学	○	○	
成人慢性期看護学	○	○	
老年看護学	○	○	○
精神看護学	○	○	○
在宅看護学	○	○	
公衆衛生看護学	○	○	

(注) 各教育研究分野については、6、7ページをご確認ください。開講する教育研究分野についてはお問い合わせください。

2 推薦要件・出願資格

(1) 推薦要件

次のいずれにも該当し、所属している機関の長から推薦が得られる者とする。

- ①「連携協力に関する協定」を締結した医療機関に医療職として勤務する者又は行政機関で保健行政に携わる者
- ②本学大学院修了後、修得した教育、研究又は高度な看護実践の能力をもって当該機関に貢献する強い意思を有する者
- ③看護師、保健師、助産師のいずれかの資格を有する者

(2) 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とする。

- ①学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者
- ②学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び令和6年3月までに授与される見込みの者

3 出願期間

一次募集	令和5年5月31日（水）～令和5年6月9日（金）（必着）
二次募集	令和5年10月10日（火）～令和5年10月20日（金）（必着）

- (注) 1 郵送による場合、出願期間最終日までの発信郵便局の消印のあるものに限り、受け付けします。
- 2 直接持参による場合の受付時間は、土曜日、日曜日、祝日を除く9時から17時までです。

4 出願方法

- (1) 出願を希望する者は、事前に必ず教育研究分野の中から志望する分野の担当教員（6ページ記載）と直接面談し、研究・教育について相談してください。
- (2) 出願の際は、「出願書類」を全て所定の封筒に入れ、出願期間内に提出してください。郵送による場合には「書留速達郵便」で郵送してください。
- (3) 出願書類

A～D、H票は26～29ページの **12 共通事項** **1 出願書類の記入例及び記入上の注意**を参照の上、必要事項を漏れなく記入してください。

出願に必要な書類		作成方法
A票	入学志願票	裏面にも記入欄がありますので、注意してください。 面談時に担当教員の署名をもらってください。
B票	写真票	縦4cm×横3cmの写真（上半身正面、無帽、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの。白黒、カラーどちらでも可）の裏面に氏名、生年月日を記入し、写真貼付欄に剥がれないように全面をのりづけしてください。
C票	受験票兼領収書	B票の写真票と同一の写真を貼ってください。
D票	原符	
E票	志願理由書	本学所定の様式に、志願者本人が記述してください。 （本研究科への志望動機、志望分野において希望する研究テーマについて）
F票	推薦書 （機関長推薦）	本学所定の様式に、推薦者が記入の上、厳封してください。
H票	電算処理票	必要事項を HBの黒鉛筆 （シャープペンシル可）で漏れなく記入してください。
I票	受験票返送用封筒	本学所定の封筒に、郵便番号、住所、氏名を明記して、344円切手（定形速達料金）を貼付してください。

出願に必要な書類		作成方法
J 票	連絡用宛名票 シール	入学手続資料等の送付に使用しますので、志願者の郵便番号、住所、氏名を記入してください。
K 票	出願用封筒	「出願者」欄に必要事項を記入し、直接持参又は書留速達郵便で送付してください。
成績証明書		出願資格に該当する大学等の学長又は学部長が証明したものを、厳封の上、提出してください。大学等に編入している者は、編入前の学校の成績証明書もあわせて提出してください。 なお、看護系短期大学、専修学校等で看護師、保健師、助産師の教育を受けた者は、当該学校の成績証明書もあわせて提出してください。 ※記録保存期間の経過、廃校・被災その他の理由により成績証明書が発行されない場合は、「発行できない旨の文書」を提出してください。
卒業・修了(見込み)証明書		出願資格に該当する大学等の卒業又は修了(見込み)証明書を提出してください。 なお、学位授与機構から学士の学位を授与された者は学位授与証明書を、学士の学位を授与される見込みの者は学位授与申請受理証明書を提出してください。(学位授与申請受理証明書を提出した者は、学位授与後、学位授与証明書を提出してください。)
入学検定料		30,000円(郵便普通為替とする。) 郵送による場合も、普通為替証書を出願書類に同封して提出してください。「指定受取人」欄及び「おところ・おなまえ」欄には一切記入しないでください。

(4) 出願にあたっての注意事項

- ① 出願書類が全てそろっていない場合には、書類の受付はできません。提出の際は十分確認してください。
- ② 出願受付後には、出願事項の変更は認めません。ただし、住所、氏名、電話番号に変更があった場合には、出願先まで連絡してください。
- ③ 出願受付後には、志望する教育研究分野の変更は認められません。
- ④ 外国語で書かれた書類については、日本語訳を作成し、公的機関で証明を受けたものを添付してください。
- ⑤ 入学を許可した後であっても、出願書類の記載内容と相違する事実が発見された場合には、入学を取り消すことがあります。
- ⑥ 一度受付をした出願書類及び入学検定料は、返還しません。

5 出 願 先

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地1
 三重県立看護大学 教務学生課
 電話 059-233-5602

6 受験票について

出願後、後日大学から送付します。試験期日の6日前までに受験票が届かない場合には、出願先までお問い合わせください。

7 就学に関する特別措置

(1) 教育方法の特例

大学院設置基準第14条では、教育方法の特例により夜間その他特定の時間又は時期において授業や研究指導を行うことができることとされています。

本学では、社会人の方に就学しやすい環境を提供するため、この教育方法の特例を適用しています。

(2) 長期履修制度

本学では職業を有している等の事情により、2年間での教育課程の履修が困難な学生に対して、3年間で計画的に履修し、教育課程を修了することにより学位を取得することができる、長期履修制度を導入しています。

これらの特例による就学を希望する者は、出願前に志望する教育研究分野の担当教員に相談をしてください。出願前に相談がなかった場合には、これらの制度を利用することはできません。

8 選抜方法等

(1) 選抜方法

入学者の選抜は、面接及び出願書類により行います。

(2) 試験日

一次募集	令和5年6月28日(水)
二次募集	令和5年11月25日(土)

(3) 時間割

	科目名	時間
一次募集	面接	14時00分～
二次募集	面接	12時00分～

(4) 試験科目

① 面接

(5) 試験場 (31ページ参照)

三重県立看護大学
三重県津市夢が丘1丁目1番地1

(6) 受験上の注意事項

- ① 試験に関する諸注意を行いますので、面接開始時刻の10分前まで（一次募集：13時50分まで、二次募集：11時50分まで）に面接控室に入室してください。
- ② 面接試験開始時刻に不在であった者は、欠席したものとし、入学者選抜の対象から除外します。
- ③ 面接試験を受験しない者は、入学者選抜の対象から除外します。
- ④ 携帯電話や音の出る機器は、アラームの設定を解除し電源を切り、かばん等に入れてください。
- ⑤ 試験日当日、受験票を忘れた者は、速やかに受験票の再発行手続を行ってください。また、受験票は、入学手続の際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。
- ⑥ 試験場では、監督者等の指示に従ってください。
- ⑦ 入室後は試験終了まで学外に出ることができませんので、食事等は必要に応じて各自持参してください。
- ⑧ 災害その他の事情により、所定の試験日程による試験実施が困難になった場合等は本学ホームページ (<https://www.mcn.ac.jp>) でお知らせしますので必ず確認してください。

9 合格発表

(1) 発表日時

一次募集	令和5年7月7日（金）14時
二次募集	令和5年12月8日（金）14時

(2) 発表方法

合格者には合格通知書及び入学手続関係書類等を郵送するとともに、本学ホームページ (<https://www.mcn.ac.jp>) 上に合格者の受験番号を掲載します。

この合格通知書をもって正式な通知といたします。

(今年度から中庭掲示板での合格者発表は行いません)

なお、ホームページ上に掲載する合格者受験番号は、あくまでも情報提供サービスの一環として掲載するものであり、正式には合格通知書で確認してください。

電話等による問い合わせには応じません。

10 連携協力協定締結機関

(1) 連携協力に関する協定を締結した医療機関（令和5年3月時点）（締結順）

三重県立こころの医療センター / 松阪市民病院
社会福祉法人恩賜財団済生会松阪総合病院
三重県厚生農業協同組合連合会松阪中央総合病院
地方独立行政法人三重県立総合医療センター / 日本赤十字社伊勢赤十字病院
独立行政法人国立病院機構三重病院 / 三重県立一志病院
三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院 / 市立伊勢総合病院
社会医療法人幾内会岡波総合病院 / 伊賀市立上野総合市民病院

(2) 連携協力に関する協定を締結した保健行政に携わる機関（令和5年3月時点）（締結順）
名張市／津市

11 学内推薦入試

1 募集人員

研究科名	課程名	専攻名	募集人員
看護学研究科	修士課程	看護学専攻	若干名

◆教育研究分野

教育研究分野	修士論文コース
人文社会看護学	○
自然科学看護学	○
実践基盤看護学	○
看護教育学	○
看護管理学	○
母性看護学	○
小児看護学	○
成人急性期看護学	○
成人慢性期看護学	○
老年看護学	○
精神看護学	○
在宅看護学	○
公衆衛生看護学	○

(注) 1 各教育研究分野については、6、7ページをご確認ください。開講する教育研究分野についてはお問い合わせください。

2 学内推薦入試では、修士論文コースのみの募集となります。

2 推薦要件

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 本学看護学部の4年次に在籍し、令和6年3月卒業見込みの者
- (2) 本学大学院へ進学し研究を行うことについて、強い意欲と能力を有する者
- (3) 本学大学院の教育研究分野のうち、志望する分野の担当教員から受け入れについて承諾を得られる者
- (4) 合格した場合、本学大学院に必ず入学することを確約できる者

3 出願期間

一次募集	令和5年5月31日(水)～令和5年6月9日(金) (必着)
二次募集	令和5年10月10日(火)～令和5年10月20日(金) (必着)

(注) 1 郵送による場合、出願期間最終日までの発信郵便局の消印のあるものに限り、受け付けします。

2 直接持参による場合の受付時間は、土曜日、日曜日、祝日を除く9時から17時までです。

4 出願方法

- (1) 出願を希望する者は、事前に卒業研究の指導教員に相談の上、教育研究分野（6ページ記載）の中から志望する分野の担当教員と直接面談し、研究・教育について相談してください。
- (2) 出願の際は、「出願書類」を全て所定の封筒に入れ、出願期間内に提出してください。郵送による場合には「書留速達郵便」で郵送してください。
- (3) 出願書類

A～D、H票は26～29ページの **12 共通事項** **1 出願書類の記入例及び記入上の注意** を参照の上、必要事項を漏れなく記入してください。

出願に必要な書類		作成方法
A票	入学志願票	裏面にも記入欄がありますので、注意してください。 面談時に担当教員の署名をもらってください。
B票	写真票	縦4cm×横3cmの写真（上半身正面、無帽、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの。白黒、カラーどちらでも可）の裏面に氏名、生年月日を記入し、写真貼付欄に剥がれないように全面をのりづけしてください。
C票	受験票兼領収書	B票の写真票と同一の写真を貼ってください。
D票	原符	
E票	志願理由書	本学所定の様式に、志願者本人が記述してください。 （本研究科への志望動機、志望分野において希望する研究テーマについて）
G票	推薦書 （学内推薦）	本学所定の様式に、推薦者（原則としてチューター担当教員）が記入の上、厳封してください。
H票	電算処理票	必要事項をHBの黒鉛筆（シャープペンシル可）で漏れなく記入してください。
I票	受験票返送用封筒	本学所定の封筒に、郵便番号、住所、氏名を明記して、344円切手（定形速達料金）を貼付してください。
J票	連絡用宛名票 シール	入学手続資料等の送付に使用しますので、志願者の郵便番号、住所、氏名を記入してください。
K票	出願用封筒	「出願者」欄に必要事項を記入し、直接持参又は書留速達郵便で送付してください。
成績証明書		3年次後期終了時点までの成績が記載された成績証明書を提出してください。

出願に必要な書類	作成方法
卒業見込証明書	卒業見込証明書を提出してください。
入学検定料	30,000円（郵便普通為替とする。） 郵送による場合も、普通為替証書を出願書類に同封して提出してください。「指定受取人」欄及び「おところ・おなまえ」欄には一切記入しないでください。

(4) 出願にあたっての注意事項

- ① 出願書類が全てそろっていない場合には、書類の受付はできません。提出の際は十分確認してください。
- ② 出願受付後には、出願事項の変更は認めません。ただし、住所、氏名、電話番号に変更があった場合には、出願先まで連絡してください。
- ③ 出願受付後には、志望する教育研究分野の変更は認められません。（教育研究分野の概要については6、7ページをご確認ください。）
- ④ 入学を許可した後であっても、出願書類の記載内容と相違する事実が発見された場合には、入学を取り消すことがあります。
- ⑤ 一度受付をした出願書類及び入学検定料は、返還しません。

5 出 願 先

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地1
 三重県立看護大学 教務学生課
 電話 059-233-5602

6 受験票について

出願後、後日大学から送付します。試験期日の6日前までに受験票が届かない場合には、出願先までお問い合わせください。

7 就学に関する特別措置

(1) 教育方法の特例

大学院設置基準第14条では、教育方法の特例により夜間その他特定の時間又は時期において授業や研究指導を行うことができることとされています。

本学では、社会人の方に就学しやすい環境を提供するため、この教育方法の特例を適用しています。

(2) 長期履修制度

本学では職業を有している等の事情により、2年間での教育課程の履修が困難な学生に対して、3年間で計画的に履修し、教育課程を修了することにより学位を取得することができる、長期履修制度を導入しています。

(3) その他

主任指導教員の指示により、必要に応じ、本学の連携協定病院等での臨床経験（非常勤での勤務を含む。）を入学後に課す場合があります。

(1)及び(2)の特例による就学を希望する者は、出願前に志望する教育研究分野の担当教員に相談をしてください。出願前に相談がなかった場合には、これらの制度を利用することはできません。

8 選抜方法等

(1) 選抜方法

入学者の選抜は、面接及び出願書類により行います。

(2) 試験日

一次募集	令和5年6月28日（水）
二次募集	令和5年11月25日（土）

(3) 時間割

	科目名	時間
一次募集	面接	14時00分～
二次募集	面接	12時00分～

※諸事情により試験開始時間が変更となる場合は、別途、連絡します。

(4) 試験科目

① 面接

(5) 試験場

三重県立看護大学

三重県津市夢が丘1丁目1番地1

(6) 受験上の注意事項

- ① 試験に関する諸注意を行いますので、面接開始時刻の10分前まで（一次募集：13時50分まで、二次募集：11時50分まで）に面接控室に入室してください。
- ② 面接試験開始時刻に不在であった者は、欠席したものとし、入学者選抜の対象から除外します。
- ③ 面接試験を受験しない者は、入学者選抜の対象から除外します。
- ④ 携帯電話や音の出る機器は、アラームの設定を解除し電源を切り、かばん等に入れてください。
- ⑤ 試験日当日、受験票を忘れた者は、速やかに受験票の再発行手続を行ってください。また、**受験票は、入学手続の際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。**
- ⑥ 試験場では、監督者等の指示に従ってください。
- ⑦ 入室後は試験終了まで学外に出ることができませんので、食事等は必要に応じて各自持参してください。
- ⑧ 災害その他の事情により、所定の試験日程による試験実施が困難になった場合等は本学ホームページ（<https://www.mcn.ac.jp>）でお知らせしますので必ず確認してください。

9 合格発表

(1) 発表日時

一次募集	令和5年7月7日（金）14時
二次募集	令和5年12月8日（金）14時

(2) 発表方法

合格者には合格通知書及び入学手続関係書類等を郵送するとともに、本学ホームページ（<https://www.mcn.ac.jp>）上に合格者の受験番号を掲載します。

この合格通知書をもって正式な通知といたします。

（今年度から中庭掲示板での合格者発表は行いません）

なお、ホームページ上に掲載する合格者受験番号は、あくまでも情報提供サービスの一環として掲載するものであり、正式には合格通知書で確認してください。

電話等による問い合わせには応じません。

12 共通事項

1 出願書類の記入例及び記入上の注意

A 票

令和6年度 三重県立看護大学大学院看護学研究科入学試験

入学志願票

区分	一般入試 (一次・二次)
受験番号	※

(フリガナ) 氏名	姓	名	(旧姓)	三 看			
	ケン ダイ	ハナ コ	性別	生	年	月	日
志望する分野	県大	花子	男 女	昭 和 平 成	6	3	0
	●成人急性期看護学	●成人慢性期看護学	●老年看護学	●小児看護学	●精神看護学	5	0
住所	該当するものに○をつけてください。		担当教員署名		大学院設置基準第14条特例の希望		
	●修士論文コース ●臨地教育者コース ●専門看護師 (CNS) コース				長期履修制度利用の有無		
緊急連絡先	(〒 514-0006)	電話番号	059-283-5602				
	ミエケンツシコウメイチョウ バンチ ダイガク		携帯電話番号等	090-XXXX-XXXX			
出願資格	三重県津市広明町18番地 大学アパート202						
	(〒 514-0116)	電話番号	059-283-5600				
	三重県津市夢が丘1-1-1 ○×病院 看護部 緊急時に連絡がつくところ(勤務先等)を記入してください。						
昭和・平成・令和 28年3月 卒業・卒業見込				卒業(見込)年月及び各項目を記入のうえ、該当する項目に○をつけてください。			
夢が丘 大学 看護 学部 看護 学科							
平成・令和 年 月 認定修了・認定修了見込							
学位授与機構 学士							
外国の学校教育修了者 文部科学大臣の指定した者 その他							

〇〇方、△△アパート△号室など
正確に記入してください。

改姓等により、出願書類と証明書等の姓が異なっている場合は、記入してください。
数字が1桁の場合は「05」のように、「0」を記入してください。

面談時に担当教員の署名をもらってください。
署名のない場合は受理できません。

(注) 1 黒又は青のボールペンを使用し、丁寧に記入してください。
2 ※印欄は記入しないでください。(B票～D票についても同じ。)

B 票 令和 6 年度
三重県立看護大学大学院
看護学研究科入学試験
写 真 票

写 真

出願前 3 か月以
内に撮影した上
半身正面、無帽
無背景のもの

縦 4 cm×横 3 cm

C 票 令和 6 年度
三重県立看護大学大学院看護学研究科入学試験
受験票兼領収書

受験番号	※
(フリガナ) 氏 名	ケンダイ ハナコ 男 県大 花子 (女)

写 真

出願前 3 か月以
内に撮影した上
半身正面、無帽
無背景のもの

縦 4 cm×横 3 cm

区 分	一般入試 (一次・二次)
志望分野	成人急性期看護学
受験番号	※
(フリガナ) 氏 名	ケンダイ ハナコ 男 県大 花子 (女)

区 分	一般入試 (一次・二次)
試 験 日	令和 年 月 日 ()
志望分野	成人急性期看護学
試 験 場	三 重 県 立 看 護 大 学

領 収 書	領 収 印
¥30,000- ただし、令和 6 年度三重県立看護 大学大学院看護学研究科入学検定料 として上記の金額を領収しました。 三重県立看護大学 出納責任者	

(切り取らないでください)

(切り取らないでください。何も記入しないでください。)

該当するものに○をつけてください。出願区分を記入してください。

出願区分を記入してください。

写真票 (B 票) と同一の写真を貼付してください。

何も記入しないでください。

(切り取らないでください)

D 票 令和 6 年度 三重県立看護大学大学院看護学研究科入学試験
原 符

区 分	一般入試 (一次・二次)	
受験番号	※	
納入者 (志願者)	住所	三重県津市広明町13番地 大学アパート202
	(フリガナ) 氏 名	ケンダイ ハナコ 県大 花子

¥30,000-

ただし、令和 6 年度三重県立看護
大学大学院看護学研究科入学検定料
として上記の金額を領収しました。

令和 年 月 日

三重県立看護大学 出納責任者

何も記入しないでください。

出願区分を記入してください。

日付は記入しないでください。

住所・氏名を記入してください。

履 歴 書		
学 歴 (高等学校卒業時から)	平成19年 3 月	三重県立夢が丘高等学校普通科 卒業
	平成19年 4 月	夢が丘大学看護学部看護学科 入学
	平成23年 3 月	夢が丘大学看護学部看護学科 卒業
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
職 歴	平成23年 4 月	〇×病院 入職
	年 月	現在に至る
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	

※学歴・職歴欄が不足する場合は、任意の様式に記入してください。

令和6年度 三重県立看護大学大学院看護学研究科入学試験

H票 電算処理票

該当するコードを記入してください。

志望分野	2	5	0
区分	7	1	0

1 姓と名をそれぞれ1コマに1文字ずつ記入してください。

フリガナ	姓	ケンダイ	名	ハナコ	性別	1 男 2 女	
漢字	姓	県大	名	花子	性別	2	
生年	西暦	1988	年	05	月	08	日
住所	都道府県コード	24	都道府県名(漢字)	三重県	電話番号	059-238-5602	

該当するコードを記入してください。

数字が1桁の場合は前に「0」を記入してください。

住所の都道府県コードを記入してください。(下表を参照)

連絡ができる電話番号を記入してください。

月・日は「03」月「31」日を記入してください。

出願資格	卒業(見込)年月日	西暦
01 大学卒(見込)	01	2011
02 学位授与(見込)		03
03 外国での16年課程卒(見込)		31
04 文部科学大臣の指定した者		
05 その他		

該当するコードを記入してください。
※記入不要

志望分野	310 人文社会看護学	315 母性看護学	320 精神看護学
	311 自然科学看護学	316 小児看護学	321 在宅看護学
	312 実践基盤看護学	317 成人急性期看護学	322 公衆衛生看護学
	313 看護教育学	318 成人慢性期看護学	
	314 看護管理学	319 老年看護学	
区分	710 一般入試(一次募集)	712 学内推薦入試(一次募集)	714 機関長推薦入試(一次募集)
	711 一般入試(二次募集)	713 学内推薦入試(二次募集)	715 機関長推薦入試(二次募集)

大学使用欄

--	--	--	--	--

都道府県コード一覧表

コード	都道府県	コード	都道府県	コード	都道府県	コード	都道府県
01	北海道	13	東京都	25	滋賀県	37	香川県
02	青森県	14	神奈川県	26	京都府	38	愛媛県
03	岩手県	15	新潟県	27	大阪府	39	高知県
04	宮城県	16	富山県	28	兵庫県	40	福岡県
05	秋田県	17	石川県	29	奈良県	41	佐賀県
06	山形県	18	福井県	30	和歌山県	42	長崎県
07	福島県	19	山梨県	31	鳥取県	43	熊本県
08	茨城県	20	長野県	32	島根県	44	大分県
09	栃木県	21	岐阜県	33	岡山県	45	宮崎県
10	群馬県	22	静岡県	34	広島県	46	鹿児島県
11	埼玉県	23	愛知県	35	山口県	47	沖縄県
12	千葉県	24	三重県	36	徳島県		

- 記入上の注意
- 1 折り曲げたり、汚したりしないこと。
 - 2 募集要項の記入例にならって枠内に丁寧に記入すること。
 - 3 必ず、HBの黒鉛筆又はシャープペンシルで、はっきりと記入すること。

(記入例) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

A 票 令和6年度 三重県立看護大学大学院看護学研究科入学試験

入学志願票

区 分	(一次・二次)
受験番号	※

(フリガナ) 氏 名	姓	名	(旧姓)					
				性 別	生 年 月 日			
				男 女	昭 和	年	月	日
志望する 分 野	該当するものに○をつけてください。 ●人文社会看護学 ●自然科学看護学 ●実践基盤看護学 ●看護教育学 ●看護管理学 ●母性看護学 ●小児看護学 ●成人急性期看護学 ●成人慢性期看護学 ●老年看護学 ●精神看護学 ●在宅看護学 ●公衆衛生看護学						大学院設置 基準第14条 特例の希望	
	該当するものに○をつけてください。 ●修士論文コース ●臨地教育者コース ●専門看護師 (CNS) コース						長期履修制度 利用の有無	
	担 当 教 員 署 名						有・無	
(フリガナ) 住 所	(〒 -)	電 話 番 号	-	-				
		携 帯 電 話 番 号 等	-	-				
緊 急 連 絡 先	(〒 -)	電 話 番 号	-	-				
	昭和・平成・令和 年 月 卒業・卒業見込 大学 学部 学科 平成・令和 年 月 認定修了・認定修了見込 学位授与機構 学士 外国の学校教育修了者 文部科学大臣の指定した者 その他							

(注) 1 黒又は青のボールペンを使用し、丁寧に記入してください。
 2 ※印欄は記入しないでください。(〔B票〕～〔D票〕についても同じ。)

(ここから切り離して提出してください)

(切り取らないでください)

B 票 令和6年度 三重県立看護大学大学院看護学研究科入学試験
写真票

写 真
出願前3か月以内に撮影した上半身正面、無帽無背景のもの
縦4cm×横3cm

区 分	(一次・二次)
志望分野	
受験番号	※
(フリガナ) 氏 名	男 女

(切り取らないでください)

C 票 令和6年度 三重県立看護大学大学院看護学研究科入学試験
受験票兼領収書

受験番号	※	写 真
(フリガナ) 氏 名	男 女	出願前3か月以内に撮影した上半身正面、無帽無背景のもの
		縦4cm×横3cm

区 分	(一次・二次)
試 験 日	令和 年 月 日 ()
志望分野	
試 験 場	三 重 県 立 看 護 大 学

領 収 書	領 収 印
¥30,000- ただし、令和6年度三重県立看護大学大学院看護学研究科入学検定料として上記の金額を領収しました。 三重県立看護大学 出納責任者	

(切り取らないでください)

D 票 令和6年度 三重県立看護大学大学院看護学研究科入学試験
原 符

区 分	(一次・二次)
受験番号	※
納 入 者 (志願者)	住 所
	(フリガナ) 氏 名

¥30,000-

ただし、令和6年度三重県立看護大学大学院看護学研究科入学検定料として上記の金額を領収しました。

令和 年 月 日

三重県立看護大学 出納責任者

履 歴 書		
学 歴 (高等学校卒業時から)	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
職 歴	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	

※学歴・職歴欄が不足する場合は、任意の様式に記入してください。

F 票

令和6年度
三重県立看護大学大学院
看護学研究科入学試験（機関長推薦）

受験番号	※
------	---

推 薦 書

令和 年 月 日

三重県立看護大学長様

所在地

推薦機関名

推薦機関長職・氏名 印

下記の者は、大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）の機関長推薦への出願にふさわしい人物と認め、ここに推薦いたします。

記

(フリガナ) 志願者 氏名		男 女	生年月日	昭和 平成	年 月 日
---------------------	--	--------	------	----------	-------

次の項目について、1,000字程度で記載してください。

- 1 職務の遂行状況に関する所見
- 2 志望する分野に対する適正及び研究能力
- 3 その他参考となる事項

<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
--

(裏面の注意事項を参照してください。)

(ここから切り離して提出してください)

G 票

令和6年度
三重県立看護大学大学院
看護学研究科入学試験（学内推薦）

受験番号	※
------	---

推 薦 書

令和 年 月 日

三重県立看護大学長様

職 名 _____

推薦者名 _____ 印

下記の者は、大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）の学内推薦への出願にふさわしい人物と認め、ここに推薦いたします。

記

学籍番号		(フリガナ) 志 願 者 氏 名	
次の項目について、1,000字程度で記載してください。			
1 勉学及び学業成績に関する所見			
2 志望する分野に対する適正及び研究能力			
3 その他参考となる事項			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			

(ここから切り離して提出してください)

(裏面の注意事項を参照してください。)

令和6年度 三重県立看護大学大学院看護学研究科 出願資格審査申請書

(フリガナ) 氏名	(男・女)	(旧姓)		整理番号	※	
生年月日	昭和・平成 年 月 日	区分	(一次・二次)	認定の可否	※	
志望分野	<p>●人文社会 ●自然科学 ●実践基盤 ●看護教育 ●看護管理 ●母性 ●小児 ●成人急性 ●成人慢性 ●老年 ●精神 ●在宅 ●公衆衛生</p> <p>上記の志望分野に○をし、下記にチェックを入れてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 志望分野の担当教員と直接面談をしました。</p>					
履歴事項(高等学校以降)	学歴	年 月 ~ 年 月	高等学校			
		年 月 ~ 年 月				
		年 月 ~ 年 月				
		年 月 ~ 年 月				
	実務経験(職歴)	期 間	勤務先・所属	具体的な職名とその職務内容		
		年 月 ~ 年 月				
		年 月 ~ 年 月				
		年 月 ~ 年 月				
		年 月 ~ 年 月				
	免許・資格等	年 月 日	(免許番号)			
年 月 日		(免許番号)				
年 月 日		(免許番号)				
年 月 日		(免許番号)				
年 月 日		(免許番号)				
連絡先住所	〒 -					
電話	電話 () -					

(ここから切り離して提出してください)

(注) 1 性別・区分・志望分野は、該当する事項を○で囲むこと。
 2 ※欄は記入しないこと。
 3 履歴事項欄が不足する場合、別紙として添付すること。
 4 入学者選抜試験の結果、合格者となった場合は、本申請書の実務経験欄に記載した経歴について、所属長の証明書を求めることもあるので、記載にあたっては正確を期すること。
 記載の内容が証明書と相違する場合は、合格を取り消すことがあります。

2 試験場・入学手続場所案内図

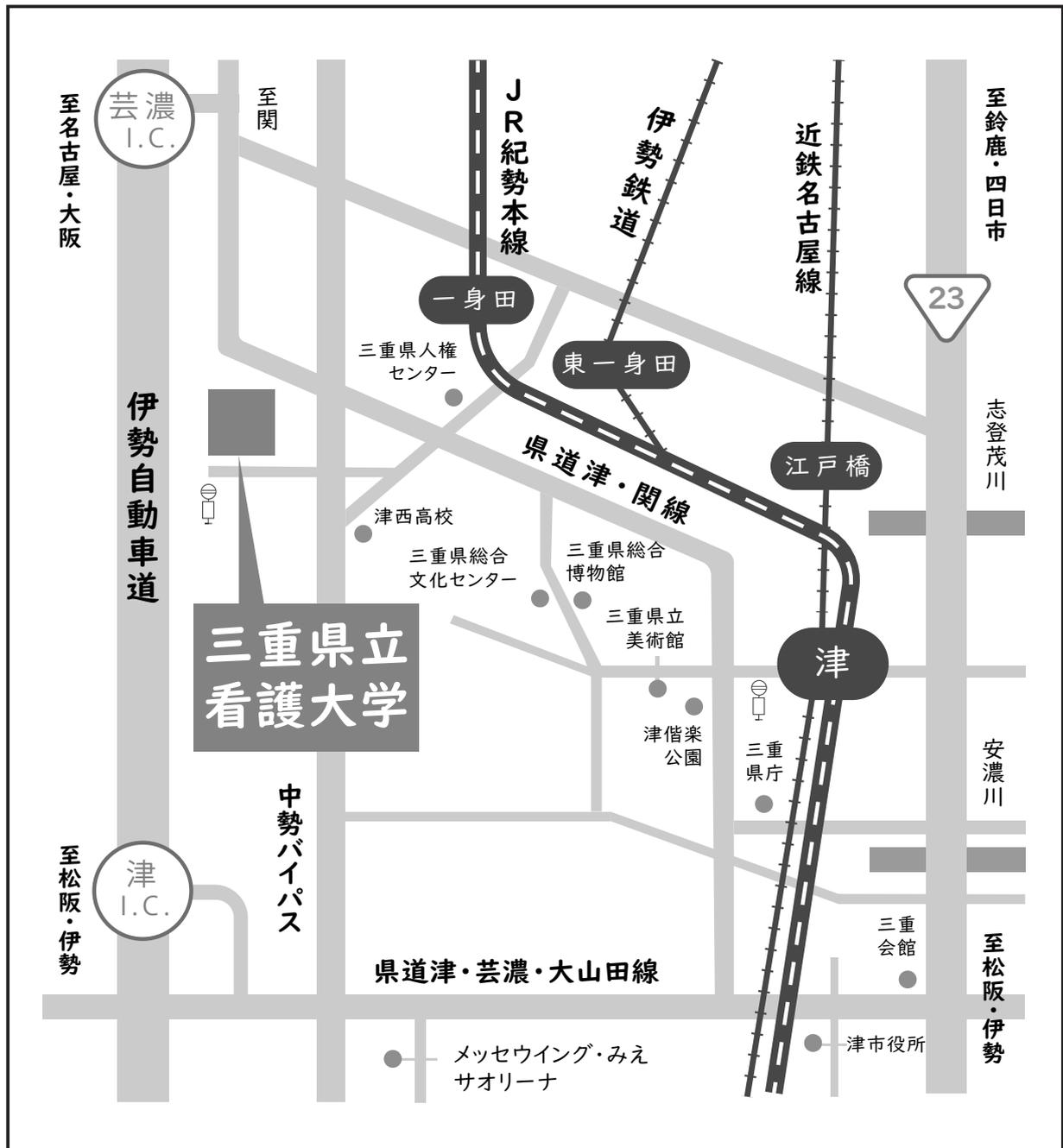
三重県立看護大学

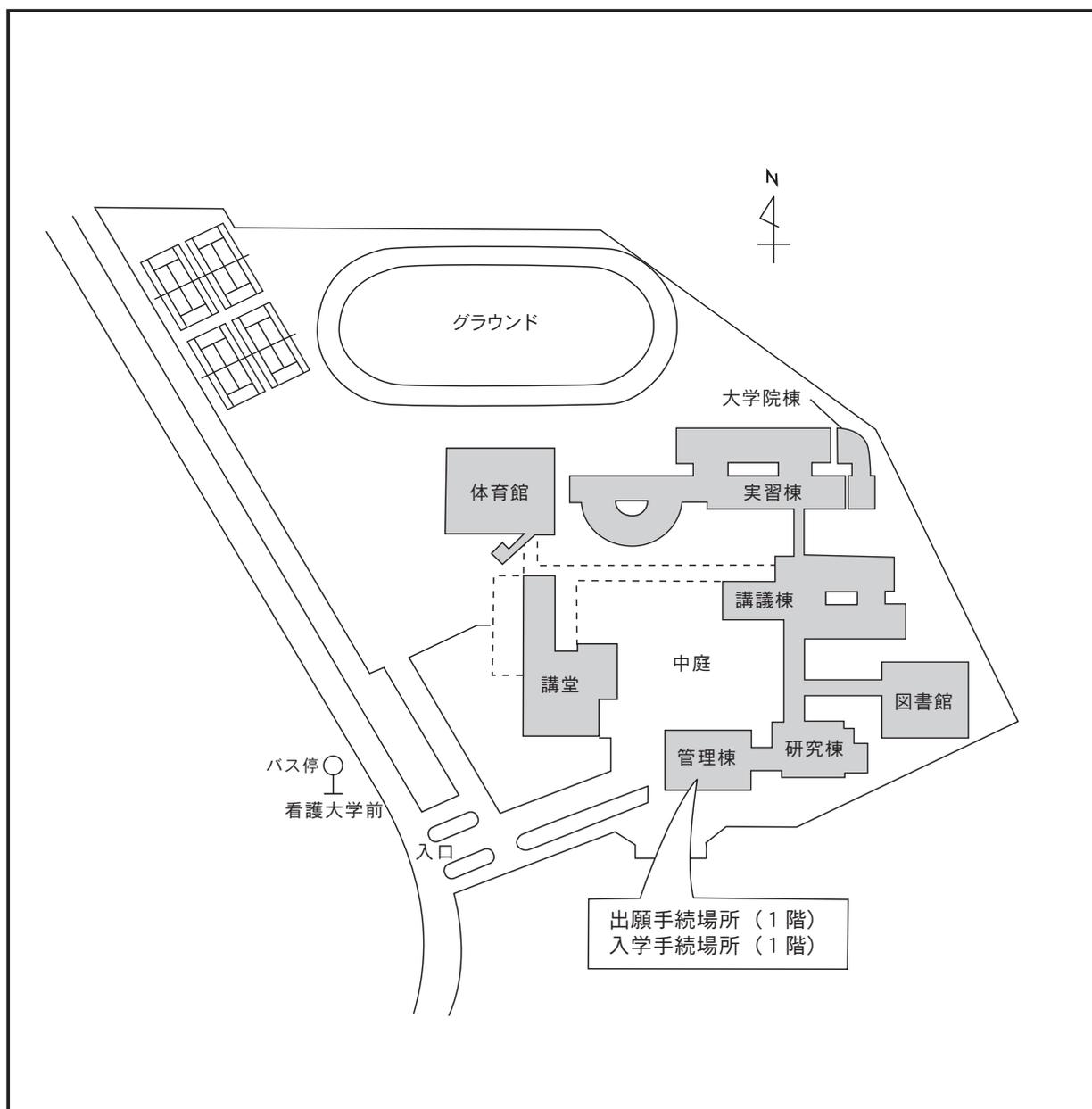
三重県津市夢が丘1丁目1番地1

〔交通案内〕

J R・近鉄 津駅西口（近鉄側）より三重交通バス

看護大学夢が丘線「看護大学前」バス停車





3 入学手続

(1) 入学手続期間

一般入試	一次募集	令和5年9月11日(月)～令和5年9月22日(金) (必着)
	二次募集	令和5年12月11日(月)～令和5年12月22日(金) (必着)
機関長推薦入試	一次募集	令和5年7月10日(月)～令和5年7月21日(金) (必着)
	二次募集	令和5年12月11日(月)～令和5年12月22日(金) (必着)
学内推薦入試	一次募集	令和5年7月10日(月)～令和5年7月21日(金) (必着)
	二次募集	令和5年12月11日(月)～令和5年12月22日(金) (必着)

(2) 入学手続方法

合格者に送付する入学手続要項に基づき、手続書類を取りそろえて、「書留速達郵便」又は「直接持参」により行ってください。直接持参の受付時間は、土曜日、日曜日、祝日を除く9時から17時までとします。

入学手続を完了した者には、後日、入学許可書を送付します。

(3) 提出書類

- ① 誓約書・保証書（保証人1名が必要です。）
- ② 個人情報の取扱いに関する同意書
- ③ 卒業証明書（3月末日までに提出してください。）
- ④ 写真（縦4cm×横3cm）1枚
- ⑤ 受験票
- ⑥ 入学料振込証明書貼付台紙（金融機関から返却された振込証明書を貼付してください。）
- ⑦ 履修計画書（担当教員と相談の上、提出してください。）
- ⑧ 大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例申請書【希望者のみ】（担当教員と相談の上、提出してください。）
- ⑨ 長期履修申請書【希望者のみ】（担当教員と相談の上、提出してください。）

※⑦～⑨の書類は、一次募集は11月24日（金）までに、二次募集は入学手続と同時に提出してください。

(4) 入学手続場所

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地1
三重県立看護大学 教務学生課
電話 059-233-5602

(5) 入学手続上の注意事項

- ① 入学手続期間内に入学手続を完了しなかった者については、入学を辞退したものとして取り扱います。

- ② 必要な書類及び入学料が全てそろっていない場合には受付できませんので、書類提出の際には十分確認してください。また、入学手続期間を過ぎて到着したものは、受付できません。郵送の場合には所要日数を十分考慮して発送してください。
- ③ 一度受付をした入学手続書類及び入学料は、返還しません。

4 初年度納付金

入学手続の際には、下表の入学料を納付する必要があります。

区 分		金 額	備 考
入 学 料	本学卒業生	94,000円	本学看護学部を卒業した者
	本学卒業生以外 三重県内者	188,000円	次のいずれかに該当する者 ① 入学者本人が、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの1年間、継続して三重県内の市町に住民登録する見込の者（注）2 ② 入学者の配偶者又は1親等の親族が、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの1年間、継続して三重県内の市町に住民登録する見込の者（注）2
	その他の者	376,000円	上記以外の者
授 業 料		535,800円 (年額)	入学後、前期（6月）、後期（11月）の2回に分けて徴収します。
その他経費			教科書及び保険等の費用が別途必要となります。

- (注) 1 入学料及び授業料は改定される場合があります。また、在学中に授業料が改定された場合には、改定時からの新授業料が適用されます。
- 2 「三重県内者」に該当する場合、確認書類として①の該当者は入学者本人、②の該当者は入学者の配偶者又は1親等の親族の「住民票抄本」等（発行日が令和5年4月1日以降のもの）を令和6年4月に提出していただきます。
- 3 上表の入学料の三重県内者で、入学手続の際に提出した申請書内容等に変更が生じ、三重県内者の要件を満たさなくなった場合は、188,000円を追加徴収します。
- 4 長期履修学生として認められた場合の授業料は、修業年限の2年分を長期履修を認められた年限で除した額となります。

5 個人情報の取扱いについて

本学では入学者選抜等を通して大学が保有することになる個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」「三重県個人情報の保護に関する法律施行条例」並びに「公立大学法人三重県立看護大学が保有する個人情報の管理に関する規程」等により適正な管理を行います。

なお、本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報については次の目的に利用します。

- ① 入学者選抜（出願処理、受験票発送、試験実施、成績処理、合格発表・通知等）にかかる

- 業務、入学手続きにかかる業務、入学者選抜方法の調査・研究等の入試事務及び付随する業務
- ② 教務事務（学籍、修学指導等）、学生支援事務（健康管理、奨学金申請等）、授業料等の
収納事務及び付随する業務

6 個人別評価の提供

受験者の請求により選抜試験の個人別評価を提供します。

(1) 提供する個人別評価の内容

専門科目（共通、分野別）の得点（一般入試のみ）及び面接の評価

(2) 提供期間

一般入試	一次募集	令和5年9月25日（月）～令和5年10月27日（金）（必着）
	二次募集	令和6年1月4日（木）～令和6年1月31日（水）（必着）
機 関 長 推 薦 入 試	一次募集	令和5年7月24日（月）～令和5年8月25日（金）（必着）
	二次募集	令和6年1月4日（木）～令和6年1月31日（水）（必着）
学 内 推 薦 入 試	一次募集	令和5年7月24日（月）～令和5年8月25日（金）（必着）
	二次募集	令和6年1月4日（木）～令和6年1月31日（水）（必着）

（注）土曜日、日曜日、祝日を除く9時から17時まで。郵送の場合は消印有効。

(3) 申請に必要な書類

- ① 三重県立看護大学入学者選抜試験に係る個人別評価請求書
- ② 受験票
- ③ 返信用封筒（個人別評価結果送付用）

（郵送で請求の場合のみ。長形3号の封筒に請求者の郵便番号、住所、氏名を明記の上、
404円切手（簡易書留料金）を貼付してください。）

（注）1 ①の請求書の様式は、以下のホームページに掲載します。

（URL）

「三重県立看護大学」→「入試情報」→（大学院）「入試に関する資料」

2 直接来学して請求することも可能です。その場合、③は不要です。

(4) 請求先

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地1
三重県立看護大学 教務学生課
電話 059-233-5602

三重県立看護大学大学院
看護学研究科看護学専攻（修士課程）の概要

授業科目及び履修要件

区分	科目 ★CNS共通A、☆CNS共通B ⊙CNS特定分野科目	単位 (時間)	配当 (注)	必要単位数				
				修士論文 コース	臨地教育者 コース	母性CNS コース	老年CNS コース	精神CNS コース
共通科目 I	看護研究概論★	2 (30)	1前	必修	*	必修	必修	必修
	看護研究方法論Ⅰ (量的研究)	2 (30)	1後	*	*	*	*	*
	看護研究方法論Ⅱ (質的研究)	2 (30)	1後	*	*	*	*	*
	看護教育論★	2 (30)	1前	必修	必修	選択6	選択6	選択6
	看護管理論★	2 (30)	1前	*	必修			
	コンサルテーション論★	2 (30)	1後	*	*			
	看護倫理★	2 (30)	1後	*	*			
	英書講読	2 (30)	1前	必修	必修	必修	必修	必修
	フィジカルアセスメント☆	2 (30)	1後	*	*	必修	必修	必修
	病態生理学☆	2 (30)	1後	*	*	必修	必修	必修
	臨床薬理学☆	2 (30)	1後	*	*	必修	必修	必修
小 計				必6+選*2 以上	必6+選*2 以上	必10+選6以上 (CNS14)	必10+選6以上 (CNS14)	必10+選6以上 (CNS14)
共通科目 II	人文社会看護学特論	2 (30)	1前	専攻分野の 特論2 + その他から 2以上 ^{注1} (注1: 人文 社会看護学 および自然 科学看護学 分野専攻の 場合は、実 践基盤看護 学以下の特 論を選択)	専攻分野の 特論2 + 看護教育学 特論2	専攻分野の 特論2	専攻分野の 特論2	専攻分野の 特論2
	自然科学看護学特論	2 (30)	1前					
	実践基盤看護学特論	2 (30)	1前					
	看護教育学特論	2 (30)	1前					
	看護管理学特論	2 (30)	1前					
	母性看護学特論⊙	2 (30)	1前					
	小児看護学特論	2 (30)	1前					
	成人急性期看護学特論	2 (30)	1前					
	成人慢性期看護学特論	2 (30)	1前					
	老年看護学特論⊙	2 (30)	1前					
	精神看護学特論⊙	2 (30)	1前					
	在宅看護学特論	2 (30)	1前					
公衆衛生看護学特論	2 (30)	1前						
小 計				必2+選2以上	必4以上	必2以上 (CNS2)	必2以上 (CNS2)	必2以上 (CNS2)
人文社会看護学分野	人文社会看護学演習Ⅰ	2 (30)	1前	必修6				
	人文社会看護学演習Ⅱ	2 (30)	1後					
	人文社会看護学演習Ⅲ	2 (30)	1後					
	人文社会看護学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後	必修12				
	人文社会看護学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前					
	人文社会看護学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後					
自然科学看護学分野	自然科学看護学演習Ⅰ	2 (30)	1前	必修6				
	自然科学看護学演習Ⅱ	2 (30)	1後					
	自然科学看護学演習Ⅲ	2 (30)	1後					
	自然科学看護学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後	必修12				
	自然科学看護学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前					
	自然科学看護学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後					

区分	科目 ★CNS共通A、☆CNS共通B ⊕CNS特定分野科目	単位 (時間)	配当 (注)	必要単位数					
				修士論文 コース	臨地教育者 コース	母性CNS コース	老年CNS コース	精神CNS コース	
実践基盤看護学分野	実践基盤看護学演習Ⅰ	2 (30)	1前	必修6	必修6				
	実践基盤看護学演習Ⅱ	2 (30)	1後						
	実践基盤看護学演習Ⅲ	2 (30)	1後						
	実践基盤看護学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後	必修12					
	実践基盤看護学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前						
	実践基盤看護学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後						
	実践基盤看護学臨地教育実習Ⅰ	3 (90)	1後		必修6				
	実践基盤看護学臨地教育実習Ⅱ	3 (90)	2前		必修6				
	実践基盤看護学課題研究Ⅰ	2 (30)	1後						
	実践基盤看護学課題研究Ⅱ	2 (30)	2前						
実践基盤看護学課題研究Ⅲ	2 (30)	2後							
看護教育学分野	看護教育学演習Ⅰ	2 (30)	1前	必修6					
	看護教育学演習Ⅱ	2 (30)	1後						
	看護教育学演習Ⅲ	2 (30)	1後						
	看護教育学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後	必修12					
	看護教育学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前						
	看護教育学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後						
看護管理学分野	看護管理学演習Ⅰ	2 (30)	1前	必修6					
	看護管理学演習Ⅱ	2 (30)	1後						
	看護管理学演習Ⅲ	2 (30)	1後						
	看護管理学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後	必修12					
	看護管理学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前						
	看護管理学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後						
母性看護学分野	母性看護学演習ⅠA	2 (30)	1前	必修6	必修6				
	母性看護学演習ⅡA	2 (30)	1後						
	母性看護学演習ⅢA	2 (30)	1後						
	母性看護学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後	必修12					
	母性看護学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前						
	母性看護学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後						
	母性看護学援助論Ⅰ(周産期医療ケア)⊕	2 (30)	1前	分野内自由	分野内自由				必修4
	母性看護学援助論Ⅱ(女性医療ケア)⊕	2 (30)	1前	分野内自由	分野内自由				
	母性看護学演習ⅠB⊕	2 (30)	1前						必修8
	母性看護学演習ⅡB⊕	2 (30)	1前						
	母性看護学演習ⅢB⊕	2 (30)	1後						
	母性看護学演習ⅣB⊕	2 (30)	1後						必修6
	母性看護学臨地教育実習Ⅰ	3 (90)	1後						
	母性看護学臨地教育実習Ⅱ	3 (90)	2前		必修10				
	母性看護学実習Ⅰ⊕	3 (90)	1後						
母性看護学実習Ⅱ⊕	7(210)	2前							
母性看護学課題研究Ⅰ	2 (30)	1後	必修6		必修6				
母性看護学課題研究Ⅱ	2 (30)	2前							
母性看護学課題研究Ⅲ	2 (30)	2後							

区分	科目 ★CNS共通A、☆CNS共通B ◎CNS特定分野科目	単位 (時間)	配当 (注)	必要単位数					
				修士論文 コース	臨地教育者 コース	母性CNS コース	老年CNS コース	精神CNS コース	
小児看護学分野	小児看護学演習Ⅰ	2 (30)	1前	必修6	必修6				
	小児看護学演習Ⅱ	2 (30)	1後						
	小児看護学演習Ⅲ	2 (30)	1後	必修12					
	小児看護学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後						
	小児看護学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前						
	小児看護学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後	必修6					
	小児看護学臨地教育実習Ⅰ	3 (90)	1後						
	小児看護学臨地教育実習Ⅱ	3 (90)	2前						
	小児看護学課題研究Ⅰ	2 (30)	1後						
	小児看護学課題研究Ⅱ	2 (30)	2前	必修6					
小児看護学課題研究Ⅲ	2 (30)	2後							
成人急性期看護学分野	成人急性期看護学演習Ⅰ	2 (30)	1前	必修6	必修6				
	成人急性期看護学演習Ⅱ	2 (30)	1後						
	成人急性期看護学演習Ⅲ	2 (30)	1後	必修12					
	成人急性期看護学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後						
	成人急性期看護学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前						
	成人急性期看護学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後	必修6					
	成人急性期看護学臨地教育実習Ⅰ	3 (90)	1後						
	成人急性期看護学臨地教育実習Ⅱ	3 (90)	2前						
	成人急性期看護学課題研究Ⅰ	2 (30)	1後						
	成人急性期看護学課題研究Ⅱ	2 (30)	2前	必修6					
成人急性期看護学課題研究Ⅲ	2 (30)	2後							
成人慢性期看護学分野	成人慢性期看護学演習Ⅰ	2 (30)	1前	必修6	必修6				
	成人慢性期看護学演習Ⅱ	2 (30)	1後						
	成人慢性期看護学演習Ⅲ	2 (30)	1後	必修12					
	成人慢性期看護学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後						
	成人慢性期看護学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前						
	成人慢性期看護学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後	必修6					
	成人慢性期看護学臨地教育実習Ⅰ	3 (90)	1後						
	成人慢性期看護学臨地教育実習Ⅱ	3 (90)	2前						
	成人慢性期看護学課題研究Ⅰ	2 (30)	1後						
	成人慢性期看護学課題研究Ⅱ	2 (30)	2前	必修6					
成人慢性期看護学課題研究Ⅲ	2 (30)	2後							
老年看護学分野	老年看護学演習ⅠA	2 (30)	1前	必修6	必修6				
	老年看護学演習ⅡA	2 (30)	1後						
	老年看護学演習ⅢA	2 (30)	1後						
	老年看護学援助論Ⅰ★	2 (30)	1前	分野内自由	分野内自由				必修6
	老年看護学援助論Ⅱ★	2 (30)	1前						
	老年看護学援助論Ⅲ★	2 (30)	1後						
	高齢者ケアシステム論★	2 (30)	1後	必修2					
	老年看護学演習ⅠB★	2 (30)	1後						
	老年看護学演習ⅡB★	2 (30)	1後	必修4					
	老年看護学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後						
	老年看護学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前						
	老年看護学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後	必修12					
	老年看護学臨地教育実習Ⅰ	3 (90)	1後						
	老年看護学臨地教育実習Ⅱ	3 (90)	2前						
	老年看護学実習Ⅰ★	2 (60)	1後						
	老年看護学実習Ⅱ★	4(120)	2前	必修10					
	老年看護学実習Ⅲ★	4(120)	2前						
	老年看護学課題研究Ⅰ	2 (30)	1後						
老年看護学課題研究Ⅱ	2 (30)	2前							
老年看護学課題研究Ⅲ	2 (30)	2後	必修6						

区分	科目 ★CNS共通A、☆CNS共通B ⊕CNS特定分野科目	単位 (時間)	配当 (注)	必要単位数					
				修士論文 コース	臨地教育者 コース	母性CNS コース	老年CNS コース	精神CNS コース	
精神看護学分野	精神看護学演習ⅠA	2 (30)	1前	必修6	必修6				
	精神看護学演習ⅡA	2 (30)	1後						
	精神看護学演習ⅢA	2 (30)	1後						
	精神看護学援助論Ⅰ⊕	2 (30)	1前						必修6
	精神看護学援助論Ⅱ⊕	2 (30)	1前	分野内自由	分野内自由				
	精神看護学援助論Ⅲ⊕	2 (30)	1後	分野内自由	分野内自由				
	精神看護学演習ⅠB⊕	2 (30)	1前						必修4
	精神看護学演習ⅡB⊕	2 (30)	1後						選択2
	リエゾン精神看護論⊕	2 (30)	1後						
	精神科慢性期看護論⊕	2 (30)	1後						必修12
	精神看護学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後						
	精神看護学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前						
	精神看護学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後						必修10
	精神看護学臨地教育実習Ⅰ	3 (90)	1後		必修6				
	精神看護学臨地教育実習Ⅱ	3 (90)	2前						
	精神看護学実習Ⅰ⊕	1 (30)	1後						
	精神看護学実習Ⅱ⊕	2 (60)	2前						
	精神看護学実習Ⅲ⊕	4(120)	2前						
	精神看護学実習Ⅳ⊕	2 (60)	2前						
	精神看護学実習Ⅴ⊕	1 (30)	2前						
精神看護学課題研究Ⅰ	2 (30)	1後							
精神看護学課題研究Ⅱ	2 (30)	2前		必修6					
精神看護学課題研究Ⅲ	2 (30)	2後			必修6				
在宅看護学分野	在宅看護学演習Ⅰ	2 (30)	1前	必修6	必修6				
	在宅看護学演習Ⅱ	2 (30)	1後						
	在宅看護学演習Ⅲ	2 (30)	1後						
	在宅看護学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後	必修12					
	在宅看護学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前						
	在宅看護学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後						
	在宅看護学臨地教育実習Ⅰ	3 (90)	1後		必修6				
	在宅看護学臨地教育実習Ⅱ	3 (90)	2前						
	在宅看護学課題研究Ⅰ	2 (30)	1後		必修6				
	在宅看護学課題研究Ⅱ	2 (30)	2前						
在宅看護学課題研究Ⅲ	2 (30)	2後							
公衆衛生看護学分野	公衆衛生看護学演習Ⅰ	2 (30)	1前	必修6	必修6				
	公衆衛生看護学演習Ⅱ	2 (30)	1後						
	公衆衛生看護学演習Ⅲ	2 (30)	1後						
	公衆衛生看護学特別研究Ⅰ	4 (60)	1後	必修12					
	公衆衛生看護学特別研究Ⅱ	4 (60)	2前						
	公衆衛生看護学特別研究Ⅲ	4 (60)	2後						
	公衆衛生看護学臨地教育実習Ⅰ	3 (90)	1後		必修6				
	公衆衛生看護学臨地教育実習Ⅱ	3 (90)	2前						
	公衆衛生看護学課題研究Ⅰ	2 (30)	1後		必修6				
	公衆衛生看護学課題研究Ⅱ	2 (30)	2前						
公衆衛生看護学課題研究Ⅲ	2 (30)	2後							
計				必18	必18	必28 (CNS22)	必28 (CNS22)	必26+選2 (CNS22)	
総計				必26+選4	必28+選2	必40+選6 (CNS38)	必40+選6 (CNS38)	必38+選8 (CNS38)	

(注) 長期履修の場合は、実習科目(CNSコースの母性看護学実習Ⅰ～Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ～Ⅲ、精神看護学実習Ⅰ～Ⅴ、各分野の臨地教育実習Ⅰ～Ⅱ)並びに各分野の特別研究Ⅰ～Ⅲ及び課題研究Ⅰ～Ⅲについては、指導教員及び担当教員と相談のうえ、履修計画及びその進捗状況により順序性を考慮しつつ学年及び学期を変更できるものとする。ただし、当該実習(精神看護学実習Ⅰ～Ⅴを除く。)及び研究における各科目を同一の学期に履修することはできないものとする。

授 業 内 容

*は非常勤講師

科 目 名	担当教員	授 業 内 容
看護研究概論	玉田 章 大川明子 小池 敦 中西貴美子 浦野 茂	看護実践の場において専門知識・技術の向上や開発を図るために必要な研究の概念や意義、研究プロセス、文献活用の意義とクリティーク、量的・質的研究方法の基本、研究での倫理的配慮を理解し、研究計画書を作成するための基礎的能力を修得するとともに、研究成果を内外に周知するための学術論文の文章作法やプレゼンテーション方法についても学ぶ。
看護研究方法論Ⅰ (量的研究)	小池 敦 大西範和 齋藤 真	量的研究の方法は看護研究の中でも重要な位置を占める研究方法の一つである。この講義では、量的研究の枠組みから解説を行い、量的研究の方法を理解し実践する際に必要となる基本的事項を学ぶ。
看護研究方法論Ⅱ (質的研究)	浦野 茂	この授業の目的は、質的研究の基本的考え方と方法、意義についての理解を深めるとともに、これを看護実践の向上へと活かしていく方法について考察していくことである。この目的に向けてこの授業では、(1)質的研究論文の精読・検討、(2)調査研究のデザイン方法、(3)データ収集・分析方法、(4)質的分析専用ソフトウェアの使用法、のそれぞれを習得する。
看護教育論	上田貴子	看護専門職者の育成、特に継続教育を担う人材となりうる教育観と知識を修得する。
看護管理論	中西貴美子	組織論をはじめとする看護管理の基本となる諸理論を理解し、変化し続ける医療および医療を取り巻く現状の中で、質の高い看護を提供するために必要な看護管理のあり方について探求する。
コンサルテーション論	長南幸恵 奥野史子※	本科目は、高度実践看護に必須とされるコンサルテーションについて、前提となる概念やモデル、実践プロセスや必要なスキルに関する知識を獲得することを目的としている。また、臨床におけるコンサルテーション場面において演習を行い、事例検討から知識と実践の統合を行うことも目的としている。
看護倫理	安部 彰 大平肇子	臨地において看護を実践する看護師に不可欠な看護倫理の知識とスキル(思考)を養成する。そのために看護倫理の実践・理論の現状を批判的に分析し、その課題を明らかにする。またそれらの課題および多様化・複雑化する看護倫理問題の考察をつうじて倫理調整力を養う。
英書講読	ドライデンいづみ	グローバルな視野から看護・医療について考察するために、英語で書かれた看護・医療論文や記事を読むためのテクニックを身につけると同時に、医療、看護に関する語彙を習得し、その語彙を使えるようにする。また、論文の抄録を英語で書く能力を身につけることを最終目標とする。海外の看護師事情を把握し、国際社会において1人の人間として、或いはプロの看護師・医療従事者としての在り方、及び患者への対応方法を様々な視点からの的確に判断できるようになる。
フィジカル アセスメント	白石葉子※ 辻本雄大※	複雑な健康問題を持つ対象者に対して、適切な臨床看護判断を行うために必要な、フィジカルアセスメントの知識と技術を学ぶ。

科目名	担当教員	授業内容
病態生理学	鈴木孝明※ 辻本雄大※	臨地において遭遇する主な疾患を系統別に取り上げ、疾患概念、病因、症状と身体所見、検査所見、治療の視点から理解し、高度看護な実践に必要な臨床看護判断の能力を養う。
臨床薬理学	林 辰弥 辻本雄大※	症状調整が必要な慢性疾患や、緊急対応が必要な各種疾患の治療に用いられる代表的な薬物について、使用頻度の高い順にその作用機序・副作用・注意事項に加えて、投与後のモニタリング・生活調整などの方法、回復力や患者の服薬管理能力の向上を図るための知識や技術を学ぶ。
人文社会看護学特論	小池 敦 浦野 茂 安部 彰 ドライデンいづみ 森下直紀	看護ケアとその対象となる人々の生活経験（日常生活、誕生、病気、障害、死など）について、心理的側面・社会的側面・倫理的側面の3つの側面からアプローチすることの看護学的意義を探究する。
自然科学看護学特論	齋藤 真 大西範和 林 辰弥	生理学、生化学、人間工学や情報学等の自然科学分野の知見や考え方にもとづいて看護学を俯瞰し、これらを生かした看護方法や看護の在り方を探求する。
実践基盤看護学特論	未定	看護の歴史の変遷をふまえ、看護実践・看護理論・看護倫理との関連について理解を深める。また、質の高い看護を実践するための、看護専門職としての課題について論考する。
看護教育学特論	上田貴子	看護職および看護学にかかわる教育制度、教育課程について学び、看護教育を担う人材となる基礎力を養う。
看護管理学特論	中西貴美子	看護管理およびマネジメントに関連する理論を学習し、組織変革を実践するための理論の適用を探求する。
母性看護学特論	大平肇子 朝倉徹夫※ 橋詰令太郎※	周産期にある母子とその家族、および思春期・成熟期・更年期・老年期女性の生活反応・健康状態・適応状態など臨床診断に必要な遺伝学的知識、生殖内分泌学的知識、周産期医学的知識、女性医学的知識、人間発達学的知識を強化する。 母性看護の対象理解と実践に必要な基本概念と支持理論を踏まえ、周産期母子および女性のライフサイクル全般にわたる健康問題について理解を深める。
小児看護学特論	宮崎つた子 前田貴彦	最近の小児看護および小児医療の動向について学習し、看護が担うべき役割について考察すると共に、様々な状況にある子どもと家族の特徴を理解し、必要な看護援助を探求する。
成人急性期看護学特論	玉田 章 長谷川智之	急性期疾患に特徴的な病態生理および危機的状況にある患者を理解するために、成人期の人々の心身の特徴を総合的に教授する。
成人慢性期看護学特論	大川明子 関根由紀	成人の慢性的な健康問題（慢性疾患やがん）をもつ人々および家族が抱える問題とその背景を学び、慢性の病いとともに生活を営む人々や家族の理解とその看護の重要な概念や理論について探求し、成人慢性領域の看護を実践するための理論的基盤を養う。

科目名	担当教員	授業内容
老年看護学特論	清水律子 六角僚子※ 井出 訓※ 湯浅美千代※	<p>高齢者看護に関わる諸理論や概念について学習し、看護実践への活用方法を検討する。また、倫理的課題をふまえ、高齢者や家族の意思に基づいた看護を実践する能力を養うことを目的とする。さらに、老人看護専門看護師の役割や機能を理解し、高齢者看護の専門性を探求する。</p> <p>なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野共通科目）「1. 老年看護の基盤となる科目」に相当する科目である。</p>
精神看護学特論	長南幸恵	<p>本科目は、精神保健医療福祉の法律・制度・臨床サービスに関して、日本における歴史的経緯及び現状と課題を学習し、諸外国との比較も踏まえながら、今後の展望を検討することを目的とする。</p> <p>なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野共通科目）「1. 歴史・法制度に関する科目」に相当する科目である。</p>
在宅看護学特論	日比野直子 六角僚子※	<p>この科目では、在宅看護について学び、わが国の訪問看護の現状を看護実践、倫理的課題、ステーションの管理運営などから俯瞰し、諸外国における在宅看護を理解し、今後の在宅看護のあり方について展望する。主には、我が国における在宅看護の歴史と、訪問看護師に求められる専門的能力について、在宅での看取りを取り上げ教授する。また、諸外国との訪問看護の比較を通して、我が国における特徴と課題を理解するために、諸外国の訪問看護に関する実態及び課題についても教授する。更に、在宅看護に関する制度や現状を概観し、在宅看護における課題と今後を展望する。</p>
公衆衛生看護学特論	清水真由美 中北裕子 大越扶貴※	<p>国内外の地域保健活動に関わる概念・理論を理解し、効果的な支援方法を探求する。</p>
人文社会看護学演習 Ⅰ	小池 敦 浦野 茂 安部 彰 ドライデンいづみ 森下直紀	<p>看護ケアの実践とその対象となる人々の生活経験（日常生活、誕生、病気、障害、死など）をめぐる問題や課題について、具体的な事例を取り上げてその心理的・社会的・倫理的側面を検討することにより、理解を深める。</p>
人文社会看護学演習 Ⅱ	小池 敦 浦野 茂 安部 彰 ドライデンいづみ 森下直紀	<p>看護ケアの実践とその対象となる人々の生活経験（日常生活、誕生、病気、障害、死など）をめぐる問題や課題について、心理学・社会学・倫理学の先行研究を検討することを通じ、理解を深める。</p>
人文社会看護学演習 Ⅲ	小池 敦 浦野 茂 安部 彰 ドライデンいづみ 森下直紀	<p>看護ケアの実践とその対象となる人々の生活経験（日常生活、誕生、病気、障害、死など）をめぐる問題や課題について、履修者の研究テーマと関わりある主題を取り上げ、その心理的・社会的・倫理的側面について検討することにより、理解を深める。</p>

科目名	担当教員	授業内容
人文社会看護学 特別研究Ⅰ	小池 敦 浦野 茂 安部 彰	人文社会看護学分野の特論・演習を踏まえて研究テーマを作成し、心理学・社会学・比較文化学の先行研究を踏まえながら適切な研究手法について検討する。これを通じて、修士論文の中間審査書類を完成させる。
人文社会看護学 特別研究Ⅱ	小池 敦 浦野 茂 安部 彰	修士論文の中間審査書類を踏まえ、履修者の研究テーマと研究手法に基づいたデータ収集方法をデザインする。これにもとづき研究協力者と適切な連携関係を保ち、理論的・方法的・倫理的に適切なデータ収集活動を行う。
人文社会看護学 特別研究Ⅲ	小池 敦 浦野 茂 安部 彰	収集したデータを分析し、研究結果を明確にする。これにもとづき、先行研究の現状と照らし合わせながら考察を行う。これらにもとづき、修士論文を執筆し、発表を行う。
自然科学看護学演習 Ⅰ	大西範和	看護に関わる諸問題の中から、生理学的視点をもって関心領域に焦点をあてる。関心領域の中から研究を進める上で中核となるResearch Questionを設定し、その背景、関連要因や意義等を網羅的に学習する。
自然科学看護学演習 Ⅱ	林 辰弥	研究計画の実施に向けて、選んだ指標の妥当性について再度確認するとともに、その指標の測定における精度や効率の向上等を図り、研究計画の実現性や得られた結果の信頼性を高める方法を学ぶ。
自然科学看護学演習 Ⅲ	齋藤 真	研究計画の実施に向けて、選んだ指標の妥当性について再度確認するとともに、その指標の測定における精度や効率の向上等を図り、研究計画の実現性や得られた結果の信頼性を高める方法を学ぶ。
自然科学看護学 特別研究Ⅰ	齋藤 真 大西範和 林 辰弥	自然科学看護学の特論や演習で学んだことを背景として、特別研究において実施する研究テーマを選び、研究計画の方法的な厳格性を高める。
自然科学看護学 特別研究Ⅱ	齋藤 真 大西範和 林 辰弥	研究計画の実施に向けて、選んだ指標の妥当性について再度確認するとともに、その指標の精度や効率の向上等を図り、研究計画の実現性や得られた結果の信頼性を高める。
自然科学看護学 特別研究Ⅲ	齋藤 真 大西範和 林 辰弥	完成させた研究計画に沿ってデータを収集・処理し、粗データとする。粗データに対して適切な解析を加えて結果とし、関連するエビデンスを参考にしながら結果の解釈を行い、その一般化・普遍化の可能性を検討する。研究の全体を修士論文として記述し、論文審査および最終試験に申請する。
実践基盤看護学演習 Ⅰ	未定 灘波 浩子 鈴木 聡美	幅広い情報収集により、看護に関する最新の動向や課題について理解し、看護実践者・研究者としての自らの学習課題を見出す。
実践基盤看護学演習 Ⅱ	未定 灘波浩子 鈴木聡美	効果的な看護ケアを実施・創造していくために、看護実践におけるクライアントへの効果を究明することの意義およびその課題について探求する。

科目名	担当教員	授業内容
実践基盤看護学演習Ⅲ	未定	看護実践において、看護援助・技術及び看護技術に関する教育方法についての開発・評価、エビデンスの追求が重要であると思われる内容を抽出し、その究明方法を探求する。
実践基盤看護学特別研究Ⅰ	未定	看護学領域における基盤となる研究課題（健康の維持増進・疾病からの回復・症状マネジメント等を支援する看護実践方法の開発・エビデンスの追求、およびそれらの看護実践を実施できる看護職者の育成）について系統的に探究し、研究課題を明確にする。また、中間審査を受審する。
実践基盤看護学特別研究Ⅱ	未定	看護学領域における基盤となる研究課題（健康の維持増進・疾病からの回復・症状マネジメント等を支援する看護実践方法の開発・エビデンスの追求、およびそれらの看護実践を実施できる看護職者の育成）を明確にし、研究を実施する。
実践基盤看護学特別研究Ⅲ	未定	看護学領域における基盤となる研究課題（健康の維持増進・疾病からの回復・症状マネジメント等を支援する看護実践方法の開発・エビデンスの追求、およびそれらの看護実践を実施できる看護職者の育成）について研究を実施し、修士論文を作成することにより、基礎的な研究能力を修得する。また、論文審査および最終試験の申請と合格を目指す。
実践基盤看護学臨地教育実習Ⅰ	未定 灘波浩子 鈴木聡美	学部教育における、1～2年生を対象とした実践基盤看護学分野の実習指導を行うことにより、看護の現場における教育指導能力の修得を目指す。
実践基盤看護学臨地教育実習Ⅱ	未定 灘波浩子 鈴木聡美	学部教育における、4年生を対象とした実践基盤看護学分野の実習指導を行うことにより、看護の現場における教育指導能力の修得を目指す。
実践基盤看護学課題研究Ⅰ	未定	学部教育における、1～2年生を対象とした実践基盤看護学分野の実習指導をとおして得られた臨地教育における課題について、明確にする。
実践基盤看護学課題研究Ⅱ	未定	学部教育における、4年生を対象とした実践基盤看護学分野の実習指導をとおして得られた臨地教育における課題について、明確にする。
実践基盤看護学課題研究Ⅲ	未定	実践基盤看護学分野の、臨地指導実習をとおして得られた臨地教育における特定の課題について、研究的手法を用いて解決・探求した結果を論文にまとめることで、臨地における教育・研究能力を養う。
看護教育学演習Ⅰ	未定	
看護教育学演習Ⅱ	未定	
看護教育学演習Ⅲ	未定	

科目名	担当教員	授業内容
看護教育学特別研究 I	未定	
看護教育学特別研究 II	未定	
看護教育学特別研究 III	未定	
看護管理学演習 I	中西貴美子	看護管理学研究を進めるうえで有用な研究方法について学習し、看護管理学研究の手法についての理解を深める。さらに、看護管理学に関する特定分野の研究を系統的に整理し、研究の動向を把握する。
看護管理学演習 II	中西貴美子	関連する研究論文のクリティークを通して論理的構成力、概念化力を身につけ、自己の取り組む研究テーマについて研究計画を立案することができる
看護管理学演習 III	中西貴美子	看護管理の実践につながる知識を身につけ、多角的な視点で保健医療福祉分野の問題・課題を捉え、解決に導く方法を身につける。
看護管理学特別研究 I	中西貴美子	看護管理学特論・演習を踏まえ、看護管理学領域の研究課題を明確にし、研究目的の設定・研究計画立案までのプロセスを学ぶ。
看護管理学特別研究 II	中西貴美子	研究計画に沿ってデータ収集を行い、研究者としての必要な基礎的能力を修得する。データ収集の前には、研究計画の倫理面について検討し、研究倫理審査を受審することによって研究者の倫理について育成する。
看護管理学特別研究 III	中西貴美子	看護管理学の視点で研究結果をまとめ、分析を行い、その結果を修士論文としてまとめる。また、論文発表会において研究内容のプレゼンテーションを行い、質疑に対応できる。
母性看護学演習 I A	大平肇子 岩田朋美 杉山泰子	母性看護の対象を理解するための関連理論、看護実践の支持理論を活用しながら、女性のライフサイクル全般にわたる健康課題・健康問題を的確に診断し、より健康的な生活を支援するための援助方法を探究する。
母性看護学演習 II A	大平肇子 岩田朋美 杉山泰子	母性看護の対象を理解するための関連理論、看護実践の支持理論を活用しながら、周産期にある母子とその家族の健康課題・健康問題を的確に診断し、プライマリーケアとクリティカルケアの観点から援助方法を探究する。
母性看護学演習 III A	大平肇子 岩田朋美 杉山泰子	女性の健康への援助・周産期母子援助に関する研究動向をふまえ、重要課題について関心のあるテーマを選び、研究方法を探究する。

科目名	担当教員	授業内容
母性看護学特別研究 I	大平肇子	母性看護学分野における重要課題として関心のあるテーマについて、科学的な視点で研究論文をクリティークする能力を養うとともに、研究デザイン、適切な研究手法を探究し、自らの研究課題を明確にする。中間審査受審に向け、研究課題に沿った研究計画を立案し、研究計画書を作成する。
母性看護学特別研究 II	大平肇子	中間審査での審査内容を反映し、研究計画を練り上げ研究内容の充実を図るとともに、研究倫理審査受審に向け、研究の倫理的妥当性・科学的合理性が確保されるよう研究倫理審査申請書を作成する。研究倫理審査承認後、研究計画に従って自律的に適正に研究活動を遂行し、研究者の基本的責務を全うする姿勢を養う。
母性看護学特別研究 III	大平肇子	研究計画に従って収集したデータの分析を行い、得られた成果について考察し、修士論文としてまとめ学位申請を行う。 修士論文発表会、学位論文審査および最終試験の過程において、的確なプレゼンテーションと討議ができる能力を養う。
母性看護学演習 I B	大平肇子 朝倉徹夫※ 佐々木直哉※ 森實かおり※	母性看護の対象を理解するための関連理論、看護実践の支持理論を活用しながら、クリティカルケアの観点から、周産期にある母子とその家族の症状アセスメントや看護介入、緊急事態に対応するための医療・援助方法を探究する。
母性看護学演習 II B	大平肇子 朝倉徹夫※ 佐々木直哉※ 橋詰令太郎※ 森實かおり※	周産期医療、新生児医療の場における看護の実際を学び、周産期にある母子とその家族のプライマリーケアとクリティカルケアの観点から、リスクマネジメントとケアの質保証、医療ケアチームにおける連携・協働、倫理的問題の判断やその解決の方略について探究する。
母性看護学演習 III B	大平肇子 森實かおり※	母性看護専門看護師の周産期母子援助場面でのプライマリーケア、正常からの逸脱や合併症・緊急事態への対応の実際を学び、包括的・総合的な看護実践、卓越した看護実践能力について理解し、その役割について考察する。また、母性看護専門看護師による研究活動の現状と課題、周産期母子援助への研究成果の活用について学び、研究的に問題に対処する姿勢を養う。
母性看護学演習 IV B	大平肇子 朝倉徹夫※ 佐々木直哉※ 森實かおり※	周産期医療提供体制、周産期母子医療センター機能の理解に基づき、MFICUやNICU・GCUにおける看護管理者の活動の実際をとおし、エビデンスの臨床への適用、業務管理、医療ケアチームの調整について学び、周産期母子援助とそのシステム、さらに母子・家族への継続支援と地域における子育て世代包括支援システムを充実発展させるうえで、リーダーシップを発揮できる能力を養う。
母性看護学援助論 I (周産期医療ケア)	大平肇子	周産期医療ケアにおける最新知識・技術、ガイドラインについて学び、関連する最新のエビデンスを獲得する方法を理解する。周産期にある母子とその家族へのプライマリーケアおよびクリティカルケアの役割と専門性、周産期ケアシステムとその組織化に関する理論と実際、周産期の母子をまもる保健政策・母子保健行政について学び、看護のあり方を探究する。

科目名	担当教員	授業内容
母性看護学援助論Ⅱ (女性医療ケア)	大平肇子	女性医療ケアにおける最新の知識・技術、ガイドラインについて学び、関連する最新のエビデンスを獲得する方法を理解する。女性のライフサイクル全般にわたる健康問題を解決する女性医療ケアの役割と専門性、女性医療ケアシステムとその組織化に関する理論、生涯を通じた女性の健康をまもる保健政策、男女共同参画社会政策について学び、看護のあり方を探究する。
母性看護学 臨地教育実習Ⅰ	大平肇子 岩田朋美 杉山泰子	学部教育における母性看護学実習において、3年生を対象とした実習指導にかかる教育実習を行い、教育指導能力を修得するとともに、母性看護学領域の臨地教育の現場における課題と解決に向けた方略を考察する。
母性看護学 臨地教育実習Ⅱ	大平肇子 岩田朋美 杉山泰子	学部教育における看護総合実習(母性看護学領域)において、4年生を対象とした実習指導にかかる教育実習を行い、教育指導能力を強化するとともに、教育目的・教育方法・学年進行に応じた教育内容のあり方を考察し、母性看護学領域における臨地教育の変革・改善のための研究課題を見出す。
母性看護学実習Ⅰ	大平肇子 岩田朋美 杉山泰子	スーパービジョンを受けながら、周産期における複雑な問題を抱える1事例への看護実践と事例検討をとおして、高度なアセスメント能力と実践能力を養うとともに、医療ケアチームにおける連携・協働・調整、倫理的問題の調整を自律的に実践する能力を養う。クリティカルケアや医療介入のための診断技術・援助技術を実践的に学び、緊急事態に対応しながらケアを行う能力を養う。
母性看護学実習Ⅱ	大平肇子 岩田朋美 杉山泰子	クリティカルケアを必要とする周産期の母子とその家族への高度看護実践と事例検討をとおして、専門看護師として高度なアセスメント能力と実践能力を養い、ケアの質の評価と向上を自律的に目指せる能力を養う。医療ケアチームにおける看護職者の役割を理解し、多職種と連携・協働できる能力を養うとともに、ケア場面での倫理的問題を判断し、その解決に向けて関係者間の調整ができる能力を養う。また、看護実践の創造、変革、改善のための研究課題を見出し、解決に向けた研究的なアプローチ能力を養う。
母性看護学課題研究Ⅰ	大平肇子	母性看護学分野の演習や臨地教育実習または母性看護学実習を通して得られた特定課題について、文献検索・検討を行い、理論的根拠をもって研究的視点を明確にしながら、適切な研究手法を検討し、自らの研究課題を明確にする。中間審査受審に向け、研究課題に沿った研究計画を立案し、研究計画書を作成する。
母性看護学課題研究Ⅱ	大平肇子	中間審査での審査内容を反映し、研究内容の充実を図るとともに、研究倫理の基本に則り研究倫理審査申請書を作成する。研究計画に従って自律的に研究活動を遂行し、臨地教育者あるいは専門看護師に必要な研究能力を養う。

科目名	担当教員	授業内容
母性看護学課題研究Ⅲ	大平肇子	研究計画に従って収集したデータの分析を行い、得られた成果について考察し、特定課題の論文をまとめ学位申請を行う。また、修士論文（特定課題）発表会、学位論文審査および最終試験の過程において的確なプレゼンテーションと討議ができる能力を養う。
小児看護学演習Ⅰ	宮崎つた子 前田貴彦	健康問題をもつ子どもと家族に対し、効果的な支援を行うための看護実践能力を養う。
小児看護学演習Ⅱ	宮崎つた子 前田貴彦	急性期（周手術期を含む）および慢性期の子どもと家族に対し、効果的な看護援助を提供するための、具体的な方法やその課題について文献検討を通して探究し、子どもと家族の健康問題を解決するための看護実践能力を養う。
小児看護学演習Ⅲ	宮崎つた子 前田貴彦	ハイリスク新生児と家族、重症心身障害児とその家族に対し、効果的な看護援助を提供するための、具体的な方法やその課題について文献検討を通して探究し、子どもと家族の健康問題を解決するための看護実践能力を養う。
小児看護学特別研究Ⅰ	宮崎つた子 前田貴彦	小児看護学分野での特論・演習を踏まえ、同分野および関連分野に関わる研究課題を明確にするとともに、研究目的の明確化や研究計画立案までに必要となる基礎的な研究遂行能力を養う。
小児看護学特別研究Ⅱ	宮崎つた子 前田貴彦	立案した研究計画に沿って実際に調査を行い、研究者として必要な基礎的な研究遂行能力を修得する。調査を実施する前には、倫理的側面についても十分に検討し、研究倫理審査を受審することによって研究者としての倫理観を醸成する。
小児看護学特別研究Ⅲ	宮崎つた子 前田貴彦	収集したデータを適切な方法で分析し、その結果を考察し修士論文としてまとめ、成果を論文発表会で発表し、質疑に対応する。そして、これら一連の過程を通して、基礎的な研究遂行能力を修得する。
小児看護学 臨地教育実習Ⅰ	宮崎つた子 前田貴彦	看護学部学生の臨地で展開される小児看護学実習において教育実習を行い、臨地実習の基本的な構成や指導内容を把握し、臨地での学生教育における基本的な教育能力や指導能力を修得する。
小児看護学 臨地教育実習Ⅱ	宮崎つた子 前田貴彦	臨地教育実習Ⅰでの学びを踏まえ、小児看護学実習における教育能力および指導能力をさらに高める。また、臨地実習指導者との実習調整などを通じて、その役割を理解し、臨床看護師の立場から看護学生指導や新人教育について省察する。
小児看護学課題研究Ⅰ	宮崎つた子 前田貴彦	小児看護学分野の演習や臨地教育実習Ⅰなどから生じた疑問について、関連文献等を抄読し、自己の課題研究の課題の設定や課題に沿った計画を立案する一連の過程について学ぶ。
小児看護学課題研究Ⅱ	宮崎つた子 前田貴彦	課題研究の実施にあたり、倫理的側面についても検討し、研究を遂行する者としての倫理観を醸成する。また、課題研究計画を実施するために必要な専門的かつ具体的な知識や技術を修得する。

科目名	担当教員	授業内容
小児看護学課題研究Ⅲ	宮崎つた子 前田貴彦	得られた結果や情報を検討し、それらが示す内容を考察し、課題論文としてとりまとめることができる。また、論文発表会でその成果を報告することができる。
成人急性期看護学演習Ⅰ	玉田 章	生命の危機的状態にある患者および家族に対応する効果的な看護援助を提供するための方法・課題を文献的学習により探究し、高度な看護実践につながる基礎的能力を育成する。また、周術期患者の看護過程の展開から必要な臨床判断能力と臨地実習や臨床教育に必要な教育能力を育成する。
成人急性期看護学演習Ⅱ	玉田 章 長谷川智之	クリティカルな状況にある人の生命維持に重要な一次・二次救命処置の理論的背景を理解するとともに、一次・二次救命処置の実践と指導方法を習得する。また、クリティカルな状況にある人に用いられるME機器管理の基礎知識や自然災害・集団感染に関連した感染制御方法の基礎知識も習得する。
成人急性期看護学演習Ⅲ	玉田 章 長谷川智之	高度な管理を必要とする治療とその具体的援助について理解し、高度な看護実践能力の育成につなげる。
成人急性期看護学特別研究Ⅰ	玉田 章	成人急性期看護学分野での特論・演習を踏まえ、同分野に関連する看護技術の開発や評価に関わる研究テーマを明確にし、研究目的の設定・研究計画立案までのプロセスを学ぶ。
成人急性期看護学特別研究Ⅱ	玉田 章	研究計画に沿って実際にデータ収集活動を推進し、研究者として必要な基礎的能力を習得する。データ収集活動の前には、研究計画の倫理面についても検討し、研究倫理審査を受審することによって研究者倫理についても育成する。
成人急性期看護学特別研究Ⅲ	玉田 章	収集したデータを分析・考察し、修士論文としてとりまとめ、論文発表会でその成果を発表し、質疑に対応できる。
成人急性期看護学臨地教育実習Ⅰ	玉田 章 長谷川智之	学部学生の臨地実習において教育実習を行い、臨地実習の基本的な構成や指導内容を把握し、臨地での学生教育における基本的な教育能力や指導能力を修得する。
成人急性期看護学臨地教育実習Ⅱ	玉田 章 長谷川智之	臨地教育実習Ⅰと比較して学年間の学生の知識・技術の修得状況の違いを理解し、臨地実習指導者との実習調整などを通じて、その役割を理解し、臨床看護師の立場から看護学生指導や新人教育について省察する。
成人急性期看護学課題研究Ⅰ	玉田 章	成人急性期看護学分野の演習や臨地指導実習などから生じた臨地教育に関する疑問について文献等を抄読し、事例研究や事例報告としてまとめるテーマの設定やテーマに沿った計画を立案するプロセスを学ぶ。
成人急性期看護学課題研究Ⅱ	玉田 章	課題の研究計画を実施し、研究を進捗するための専門的かつ具体的な知識や技術を修得する。

科目名	担当教員	授業内容
成人急性期看護学 課題研究Ⅲ	玉田 章	得られた結果を考察して課題論文としてとりまとめ、論文発表会でその成果を報告することができる。
成人慢性期看護学 演習Ⅰ	関根由紀	成人慢性期看護学領域（がんや慢性疾患患者）における患者や家族が抱えている問題に対する看護援助について、諸理論や研究成果を概観し、理論を活用した看護実践を探究する。
成人慢性期看護学 演習Ⅱ	大川明子	成人慢性看護学領域における患者（がん看護含む）や家族が抱えている問題や看護援助に関する研究論文クリティークを通して、自らの専門的看護能力を養うと共に、今後の看護の課題について探究する。
成人慢性期看護学 演習Ⅲ	大川明子	成人慢性看護領域に関連する現状と課題を明らかにし、さらに文献検討、フィールドワークを通して自らの研究課題、研究方法の計画を練り記述する。
成人慢性期特別研究 Ⅰ	大川明子	成人慢性期看護学分野での特論・演習を踏まえ、同分野に関連する看護技術の開発や評価に関わる研究テーマを明確にし、研究目的の設定・研究計画立案までのプロセスを学ぶ。
成人慢性期特別研究 Ⅱ	大川明子	研究計画に沿って実際にデータ収集活動を推進し、研究者として必要な基礎的能力を習得する。データ収集活動の前には、研究計画の倫理面についても検討し、研究倫理審査を受審することによって研究者倫理についても育成する。
成人慢性期特別研究 Ⅲ	大川明子	収集したデータを分析・考察し、修士論文としてとりまとめ、論文発表会でその成果を発表し、質疑に対応できる。
成人慢性期看護学 臨地教育実習Ⅰ	大川明子 関根由紀	学部学生の臨地実習において教育実習を行い、臨地実習の基本的な構成や指導内容を把握し、臨地での学生教育における基本的な教育能力や指導能力を修得する。
成人慢性期看護学 臨地教育実習Ⅱ	大川明子 関根由紀	臨地教育実習Ⅰと比較して学年間の学生の知識・技術の修得状況の違いを理解し、臨地実習指導者との実習調整などを通じて、その役割を理解し、臨床看護師の立場から看護学生指導や新人教育について省察する。
成人慢性期看護学 課題研究Ⅰ	大川明子	成人慢性期看護学分野の演習や臨地指導実習などから生じた臨地教育に関する疑問について文献等を抄読し、事例研究や事例報告としてまとめるテーマの設定やテーマに沿った計画を立案するプロセスを学ぶ。
成人慢性期看護学 課題研究Ⅱ	大川明子	課題の研究計画を実施し、研究を進捗するための専門的かつ具体的な知識や技術を修得する。
成人慢性期看護学 課題研究Ⅲ	大川明子	得られた結果を考察して課題論文としてとりまとめ、論文発表会でその成果を報告することができる。
老年看護学演習ⅠA	清水律子	老化による身体的・心理的・社会的機能の変化と生活への影響を看護判断の基盤とし、高齢者が持つ複雑な健康問題に対してアセスメントする能力を養う。

科目名	担当教員	授業内容
老年看護学演習ⅡA	清水律子	認知症を持つ高齢者と家族のケアマネジメントができる能力を養うとともに、保健医療福祉専門職の連携、効果的なチームアプローチについて探究し、最新の専門的知識に基づき高齢者・家族への看護を実践する能力を養う。また、老年看護に関する研究の特徴と動向を把握し今後の研究活動の土台とする。
老年看護学演習ⅢA	清水律子	健康な高齢者への看護介入と、健康障害をもつ高齢者への看護介入について探究する。また、看護介入の実施についてプレゼンテーションを行い課題を検討することにより、高齢者への看護介入からみた老年看護の独自性について考える機会とする。
老年看護学援助論Ⅰ	未定 本間 昭※	老化による高齢者の機能の変化と生活への影響をふまえ、高齢者が持つ健康課題を身体的・精神的・社会的側面より評価指標を用いて包括的にアセスメントし、看護実践の根拠として活用する能力を養うことを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野共通科目）「2. 高齢者の健康生活評価に関する科目」に相当する科目である。
老年看護学援助論Ⅱ	未定 本間 昭 ※ 岩本卓也※	適切な看護判断に基づいて看護援助を実践するために、老年期に発生頻度の高い疾患や症候群の病態・検査・治療や、高齢者への薬物療法について学習することを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野共通科目）「3. 老年期の疾患と検査、治療に関する科目」に相当する科目である。
老年看護学援助論Ⅲ	未定 市川智子※ 北川晶子※	高齢者の健康課題や生活機能の特徴を理解した上で、高齢者や家族の生活の質を高めるために必要な看護援助について倫理的課題をふまえて選択し、専門的かつ高度な看護を実践する能力を身につけることを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野共通科目）「4. 高齢者と家族への看護実践に関する科目」に相当する科目である。
高齢者ケアシステム論	未定 市川智子※	国際的な視野から高齢化の現状を分析し、高齢者を取り巻く保健医療福祉制度・政策について理解する。また、高齢者を支援するためのケアシステムについて自己の見解を持ち、必要な高齢者施策を提言することのできる力を養うことを目的としている。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野専門科目）「4. 高齢者保健医療福祉政策とサポートシステムに関する科目」に相当する科目である。
老年看護学演習ⅠB	未定 本間 昭※ 長谷川真澄※	認知症の機序や治療方法を理解し、重症度や症状についてアセスメントする能力を身につけ、認知症高齢者と家族の意思に基づき、高度な看護援助を実践する能力を養うことを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野専門科目）「5. 認知症老年看護に関する科目」に相当する科目である。

科目名	担当教員	授業内容
老年看護学演習ⅡB	未定 松岡千代※	高齢者が地域において心身の健康を保持し、その人らしく生活する上で必要な援助を包括的かつ継続的に提供するために、長期の罹患経過のなかでセルフケアを行っている高齢者及び家族に対し、高度な看護援助を実践する能力を養うことを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野専門科目：慢性期における老年看護に関する科目に相当する科目である。
老年看護学特別研究Ⅰ	未定	自己の研究課題を明確にするために文献の批判的検討を行い、研究目的の設定・研究計画立案までのプロセスを学ぶ。
老年看護学特別研究Ⅱ	未定	研究を実施するにあたり生じる倫理的課題を検討し、研究倫理審査を受審することによって研究者倫理について学ぶ。また、研究計画に沿って実際にデータを収集し、研究者として必要な基礎的能力を習得する。
老年看護学特別研究Ⅲ	未定	収集したデータを分析・考察し、論文として完成させる。また、論文発表会において成果を発表することにより、研究の一連の流れを習得し今後の研究活動の土台とする。
老年看護学 臨地教育実習Ⅰ	清水律子	学部3年生の老年看護学実習において教育実習を行い、臨地実習の基本的な構成や指導内容を把握し、臨地での学生教育における基本的な教育能力や指導能力を修得する。
老年看護学 臨地教育実習Ⅱ	清水律子	学部4年生の看護総合実習（老年看護学領域）において教育実習を行い、臨地教育実習Ⅰと比較して学年間の学生の知識・技術の修得状況の違いを理解し、指導内容につなげる。また、臨地実習指導者との実習調整などを通じて、その役割を理解し、看護学生指導や新人教育について省察する。
老年看護学実習Ⅰ	清水律子	老年看護学における諸理論や技法を踏まえ、老人看護専門看護師と行動を共にし、活動に参加することを通して役割機能を学習し、専門看護師として実践をするための基礎的な能力を養うことを目的とする。
老年看護学実習Ⅱ	清水律子	認知症看護に関する既習の知識や技術を統合し、認知症高齢者の生活機能や、病態像をふまえた治療・薬物療法等、ケアとキュアの両側面から包括的にアセスメントした上で、老人看護専門看護師に求められる役割機能について、実践を通して学ぶことを目的とする。 なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（実習科目）「認知症老年看護に関する実習」に相当する科目である。

科目名	担当教員	授業内容
老年看護学実習Ⅲ	清水律子	高齢者が地域において心身の健康を保持し、その人らしく生活する上で必要な援助を包括的かつ継続的に提供するために、慢性期における老年看護に関する既習の知識や技術を統合し、高齢者の生活機能や、病態像をふまえた治療・薬物療法等、ケアとキュアの両側面から包括的にアセスメントした上で、老人看護専門看護師に求められる役割機能について、実践を通して学ぶことを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（実習科目）「慢性期における老年看護に関する実習」に相当する科目である。
老年看護学課題研究Ⅰ	未定	臨地教育実習Ⅰを通して得た自己の課題を明確にするために、老年看護学に関わる文献の批判的検討を行い、課題研究のテーマの設定や研究計画立案までのプロセスを学ぶ。
老年看護学課題研究Ⅱ	未定	課題研究を実施するにあたり生じる倫理的課題を検討し、必要に応じて研究倫理審査を受審することによって研究者倫理について学ぶ。また、課題の研究計画を実施し、研究を進捗するための専門的かつ具体的な知識や技術を修得する。
老年看護学課題研究Ⅲ	未定	自己の課題について研究的視点から考察し発表することにより、今後の臨地における研究活動の土台とする。
精神看護学演習ⅠA	長南幸恵	本科目は、精神的困難を抱えた人とその家族、あるいは集団を理解し、アセスメントするために用いられている基礎的理論を学習し、臨床看護における適応や使用方法について検討することを目的とする。
精神看護学演習ⅡA	長南幸恵	本科目は、精神的な困難を抱えた人の精神状態及び生活の評価に必要な技法を理解し、看護実践及び教育に必要とされる対象を包括的に評価する能力を修得することを目的とする。また、精神科臨床で用いられる薬物療法や心理社会的療法、その他の治療技法について最新の知見及び実践を学習し、臨床看護における介入のあり方について考察することも目的とする。
精神看護学演習ⅢA	長南幸恵	本科目は、精神保健医療福祉における疫学研究の進め方について理解し、その基本的な技術を習得するために、研究の枠組み、論文の読み方、研究デザインとデータの収集、論文の書き方について講義と演習を行う。
精神看護学援助論Ⅰ	長南幸恵	本科目は、精神的困難を抱えた人とその家族、あるいは集団を理解し、アセスメントするために用いられている基礎的理論を学習し、臨床看護における適応や使用方法について検討することを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野共通科目）「4. 精神看護理論・援助技法に関する科目」に相当する科目である。
精神看護学援助論Ⅱ	長南幸恵 奥野史子※	本科目は、精神的な困難を抱えた人の精神状態及び生活の評価に必要な技法を理解し、卓越した看護実践に必要とされる対象を包括的に評価する能力を修得することを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野共通科目）「2. 精神・身体状態の評価に関する科目」に相当する科目である。

科目名	担当教員	授業内容
精神看護学援助論Ⅲ	長南幸恵 小池 敦 奥野史子※	本科目は、精神科臨床で用いられる薬物療法や心理社会的療法、その他の治療技法について最新の知見及び実践を学習し、臨床看護における介入のあり方について考察することを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野共通科目）「3. 精神科治療技法に関する科目」に相当する科目である。
精神看護学演習ⅠB	長南幸恵 奥野史子※	本科目は、精神的に困難を抱える人及びその家族と信頼関係を構築するためのコミュニケーション技法を学習し、精神看護理論に基づいたアセスメントと高度実践看護の基本となる援助技法を習得することを目的とする。また、対象者を取り巻く組織や医療チームを理論枠組みを用いてアセスメントすることを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野共通科目）「4. 精神看護理論・援助技法に関する科目」に相当する科目である。
精神看護学演習ⅡB	長南幸恵 奥野史子※	本科目は、精神科領域にて用いられている面接法、支持的精神療法、心理療法や心理社会的療法、その他の治療技法の提供方法や展開について学習し、高度実践看護師として、あるいはチーム医療の枠組みにおいて提供する方法を習得することを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野共通科目）「3. 精神科治療技法に関する科目」に相当する科目である。
リエゾン精神看護論	長南幸恵 奥野史子※	本科目は、リエゾン精神看護の対象となる人々への支援に関する既存の理論・知識・技術を統合すること、先駆的な取り組みや実践内容について学修し、看護師が対応困難と感じるケースへの直接介入・コンサルテーション、看護師のメンタルサポートの方法を探求することを目的としている。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野専門科目）「8. リエゾン精神看護」に相当する科目である。
精神科慢性期看護論	長南幸恵 未定※	本科目は、重度の障害を慢性的に抱える人を含む、慢性期及び回復期（リハビリテーション）にある精神障害者の現状の課題を学習し、包括的に支援するための治療法や支援技法、地域支援サービス実践内容等について学習し、高度実践看護師としての実践について考察することを目的としている。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専攻分野専門科目）「2. 慢性期精神看護」に相当する科目である。
精神看護学特別研究Ⅰ	未定	本科目は、精神看護学分野に関する疑問について文献等を抄読し、研究テーマの設定やテーマに沿った計画を立案するプロセスを学ぶことを目的としている。
精神看護学特別研究Ⅱ	未定	本科目は、研究計画に沿って実際にデータ収集活動を推進し、研究者として必要な基礎的能力を習得する。データ収集活動の前には、研究計画の倫理面についても検討し、研究倫理審査を受審することによって研究者倫理についても育成することを目的とする。

科目名	担当教員	授業内容
精神看護学特別研究Ⅲ	未定	本科目は、調査及び分析によって得られた結果を考察して研究論文としてとりまとめること、修士論文発表会にてその成果を報告することができる能力を獲得することを目的としている。
精神看護学 臨地教育実習Ⅰ	長南幸恵	本科目は、精神看護学領域における学部学生の臨地実習において教育実習を行い、臨地実習の基本的な構成や指導内容を把握し、臨地での学生教育における基本的な教育能力や指導能力を修得することを目的とする。
精神看護学 臨地教育実習Ⅱ	長南幸恵	本科目は、臨地教育実習Ⅰと比較して学年間の学生の知識・技術の修得状況の違いを理解し、臨地実習指導者との実習調整などを通じて、その役割を理解し、臨床看護師の立場から看護学生指導や新人教育について省察することを目的とする。
精神看護学実習Ⅰ	長南幸恵	本科目は、精神看護学における諸理論と技法を踏まえ、精神看護専門看護師の活動への参加観察を通し、役割機能（相談・調整・倫理調整・教育・研究）を学習し、専門看護師として実践をするための基礎的な能力を養うことを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（実習科目）「専門看護師の役割機能の実習」に相当する科目である。
精神看護学実習Ⅱ	長南幸恵 小池 敦	本科目は、精神科領域で用いられる診断及び治療法について臨床実践の場における見学・参加を通して学習し、専門看護師として実践をするための基礎的な能力を養うことを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（実習科目）「医療施設における精神科診断・治療実習」に相当する科目である。
精神看護学実習Ⅲ	長南幸恵	精神的困難をもつ人とその家族や重要他者に対して、精神看護で有益な緒理論および概念モデルを活用して、患者の生理・心理・社会的状況をアセスメントする。受け持ち看護師、看護師チーム、多職種チーム、地域連携などの治療およびケアの構造を把握しながら高度な看護ケアを展開する能力を培うことを目的としている。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（実習科目）「医療施設等における直接ケア実習」に相当する科目である。
精神看護学実習Ⅳ	長南幸恵	本科目は、専攻分野専門科目（サブスペシャリティ領域）における直接ケア及びコンサルテーション・コーディネーションについて、精神看護専門看護師と指導教員によるスーパーバイズのもと、精神看護専門看護師の機能と役割（相談・調整・倫理調整・教育・研究）を実践する能力を養うことを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（実習科目）「専攻分野専門科目（サブスペシャリティ領域）における直接ケア実習」に相当する科目である。

科目名	担当教員	授業内容
精神看護学実習Ⅴ	長南幸恵	本科目は、コンサルテーション・コーディネーションについて、精神看護専門看護師と指導教員によるスーパーバイズのもと、精神看護専門看護師の機能と役割（相談・調整・倫理調整・教育・研究）を実践する能力を養うことを目的とする。なお本科目は、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（実習科目）「医療施設または地域におけるコンサルテーション・コーディネーション実習」に相当する科目である。
精神看護学課題研究Ⅰ	未定	本科目は、精神看護学分野のCNS実習や臨地指導実習などから生じた疑問について文献等を抄読し、事例研究や事例報告あるいは文献レビューとしてまとめるテーマの設定やテーマに沿った計画を立案するプロセスを学ぶことを目的としている。
精神看護学課題研究Ⅱ	未定	本科目は、立案した研究計画に沿って調査等のデータ収集を遂行し、研究を進捗するための専門的かつ具体的な知識や技術を修得することを目的とする。
精神看護学課題研究Ⅲ	未定	本科目は、調査及び分析によって得られた結果を考察して課題論文としてとりまとめること、論文発表会でその成果を報告することができる能力を獲得することを目的としている。
在宅看護学演習Ⅰ	日比野直子	看護現象を科学的に分析、評価するため、周辺科目と当該科目を関連させながら、根拠ある在宅での看護実践を理解する。本科目では、療養者の事例を分析する一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす、すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のある在宅でのテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、患者会、病棟や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。ここでは、在宅看護学全般に関するテーマを対象とする。
在宅看護学演習Ⅱ	日比野直子	療養者・家族の健康と生活に活用できる理論やモデルを応用して、在宅看護におけるフィジカルアセスメント、家族アセスメント、生活環境アセスメント、セルフケアアセスメントの実際について修得する。また、在宅療養者・家族に関わるケアマネジメントの理論と実践について探求する。
在宅看護学演習Ⅲ	日比野直子	在宅療養者の看護計画の立案と実践・評価を含めた在宅看護過程を展開する。複雑で多様な課題を持つ療養者やケア提供者について、在宅療養者の健康と生活に活用できる理論やモデルを応用して、家族、セルフケア、生活環境をアセスメントし、倫理的・臨床的判断を総合して、問題解決方法を提案する。
在宅看護学特別研究Ⅰ	未定	関心領域の看護現象を科学的に分析し、創造的な実践を開発する研究能力を獲得するため、本科目では、文献を構造的に解読するための基礎的な能力を養うことを目的とする。
在宅看護学特別研究Ⅱ	未定	在宅看護学分野の特論・演習を踏まえ、研究課題に沿って、在宅看護の活動の充実・発展に向けた理論を創造する。

科目名	担当教員	授業内容
在宅看護学特別研究Ⅲ	未定	在宅における看護現象を科学的に分析・評価するため、周辺科目と当該科目を関連させ、研究能力を修得する。
在宅看護学臨地教育実習Ⅰ	日比野直子	学部3年生の在宅看護学実習において教育実習を行い、臨地実習の基本的な構成や指導内容を把握し、臨地での学生教育における基本的な教育能力や指導能力を修得する。
在宅看護学臨地教育実習Ⅱ	日比野直子	学部4年生の看護総合実習（在宅看護学領域）において教育実習を行い、臨地教育実習Ⅰと比較して学年間の学生の知識・技術の修得状況の違いを理解し、指導内容につなげる。また、臨地実習指導者との実習調整などを通じて、その役割を理解し、看護学生指導や新人教育について省察する。
在宅看護学課題研究Ⅰ	未定	関心領域の看護現象を科学的に分析し、創造的な実践を開発する研究能力を獲得するため、本科目では、文献を構造的に解読するための基礎的な能力を養うことを目的とする。
在宅看護学課題研究Ⅱ	未定	在宅看護学分野の特論・演習を踏まえ、研究課題に沿って、在宅看護の活動の充実・発展に向けた理論を創造する。
在宅看護学課題研究Ⅲ	未定	在宅における看護現象を科学的に分析・評価するため、周辺科目と当該科目を関連させ、研究能力を修得する。
公衆衛生看護学演習Ⅰ	清水真由美 中北裕子	公衆衛生看護領域の対象とその特性に対応していくため必要とされる研究課題を討論する。公衆衛生看護学分野に関する研究を系統的に整理し、自ら取り組むべき研究課題を探索する。
公衆衛生看護学演習Ⅱ	清水真由美 中北裕子	公衆衛生看護学領域で用いられる理論や研究方法について、実践への有効活用事例を用い理解を深め、自己の研究テーマに適した研究デザインを探索する。
公衆衛生看護学演習Ⅲ	清水真由美	自己の取り組む研究テーマについて、研究計画書を作成することができる。
公衆衛生看護学特別研究Ⅰ	清水真由美	自己の研究課題を明確にするために文献の批判的検討を行い、研究目的の設定・研究計画立案までのプロセスを学ぶ。
公衆衛生看護学特別研究Ⅱ	清水真由美	研究を実施するにあたり生じる倫理的課題を検討し、研究倫理審査を受審することによって研究者倫理について学ぶ。また、研究計画に沿って実際にデータを収集し、研究者として必要な基礎的能力を習得する。
公衆衛生看護学特別研究Ⅲ	清水真由美	収集したデータを分析・考察し、修士論文として完成させる。また、論文発表会において成果を発表し、質疑応答に対応する。
公衆衛生看護学臨地教育実習Ⅰ	清水真由美	学部教育における公衆衛生看護学実習において、3年生を対象とした実習指導にかかる教育実習を行い、教育指導能力を修得するとともに、公衆衛生看護学領域の臨地教育の現場における課題と解決に向けた方略を考察する。

科目名	担当教員	授業内容
公衆衛生看護学 臨地教育実習Ⅱ	清水真由美	学部4年生の看護総合実習（公衆衛生看護学領域）において教育実習を行い、臨地教育実習Ⅰと比較して学年間の学生の知識・技術の修得状況の違いを理解し、指導内容につなげる。また、臨地実習指導者との実習調整などを通じて、その役割を理解し、看護学生指導や新人教育について省察する。
公衆衛生看護学 課題研究Ⅰ	清水真由美	臨地指導実習Ⅰなどから生じた臨地教育に関する疑問について文献等を抄読し、事例研究や事例報告としてまとめる研究課題を明確にする。中間審査受審に向け、研究課題に沿った研究計画を立案し、研究計画書を作成する。
公衆衛生看護学 課題研究Ⅱ	清水真由美	課題の研究計画を実施し、研究を進捗するための専門的かつ具体的な知識や技術を修得する。
公衆衛生看護学 課題研究Ⅲ	清水真由美	自己の課題について研究的視点から考察し発表することにより、今後の臨地における研究活動の土台とする。

問い合わせ先

公立大学法人
三重県立看護大学教務学生課

〒514-0116

三重県津市夢が丘1丁目1番地1

電話：059-233-5602

